



千葉大学医学部同窓会報 第122号

題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元るの は な 同窓会長)

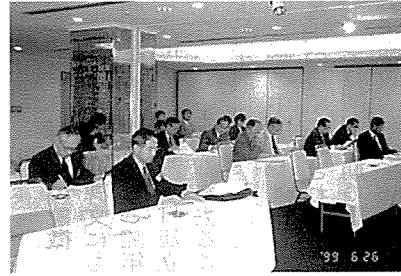
編集発行者
千葉大学医学部
るの は な 同窓会報編集部
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学医学部内
るの は な 同窓会
電話 (043) 202-3750
FAX (043) 202-3753
e-mail: idosokai@med.m.chiba-u.ac.jp

「附属病院の門標について」
矢作トンネルの開通(平成11年3月19日)にともない、病院正門の周辺部が一部改修された。この正門には、外に向かって凸に湾曲した門柱があり、この門柱に病院名が門標として刻印されていた。この門標は門柱とともに取り除かれて、新たに門標を作成し正門の東側に設置した(写真下)。新しい門標は写真の通り平

病院長

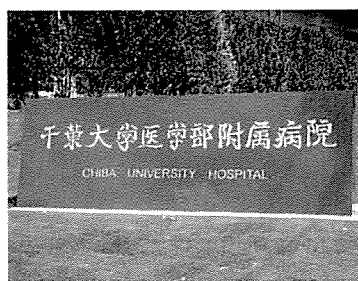
附属病院 ニ ュ ー ス

平成11年度るの は な 同窓会総会が、平成11年6月26日(土)午後3時より、千葉駅ビルのペリエにおいて開催された。
鈴木信夫理事の開会の挨拶

平成十一年度
るの は な 同窓会総会開催

その後、会議に先立って、物故者87名の冥福を祈り、黙祷をささげた。井出源四郎会長挨拶に続いて、本内政寛理事より会務報告があった。また議題については各担当理事から説明があり、審議承認された(詳細は17面に掲載)。

引き続き、平成10年度るの は な 同窓会賞の表彰式が行われた(関連記事は本号6〜7面および121号に掲載)。総会終了後の懇親会では同窓会活性化について有益な意見が交わされ、極めて有意義な会となった。



山浦 晶 (昭40卒)
御影石で、「千葉大学医学部附属病院」の文字はこれ

るの は な 同窓会
学外研究助成募集要項

第1回(1999年度)るの は な 同窓会学外研究助成の応募を左記により受け付けます。なお研究費の交付を受けた方は3年以内に同窓会総会(毎年6月)にて研究成果の発表を行っていただきます。

一、助成対象 大学およびそれに準ずる研究所以外の施設に勤務している本会会員(甲および乙)が、個人またはグループの代表となつて行う研究。

二、助成金 本年度の助成総額は300万円とし、1件につき50〜100万円を予定しています。

三、応募方法 8月1日から10月10日までに申請して下さい。申請用紙は同窓会事務局宛に請求して下さい。

四、研究助成の決定 選考委員会および常任理事会の議を経て、会長が行います。

五、問い合わせおよび申請用紙請求先 千葉大学医学部内るの は な 同窓会事務局
右選考は「るの は な 同窓会学外研究助成規程」(本会報に記載)にもとづいて行われます。本年度の選考はるの は な 同窓会賞選考委員があたります。

までの筆跡をそのまま保存し、拡大して刻印した。周辺を芝などで囲み、夜は外来者のためにライティングをしている。

この作業の間、門標の筆跡がどなたのものか諸先輩に尋ねたが、答えは得られなかった。本誌をご覧の方で情報をお持ちの方は、ぜひご連絡下さい。

「外来入院口等の改修」

本館の改修工事に合わせて、1階のロビーの受け付けをオーブンカウンターに改修し(写真右下)、B1



の狭隘であった医事課入院受け付け室を拡大した(写真下)(平成11年3月末)。

これにより雰囲気ガラリとかわり、患者さんと職員とのふれあいはるかに改善された。職員の接遇研修

紙 面 紹 介

- (2画) : 食道癌の遺伝子治療
辛亥革命記念碑について
(3〜5画) : 教授、病院長、学長就任挨拶
(5画) : 病院紹介 千葉県循環器病センター
(6〜8画) : るの は な 同窓会賞受賞者の言葉
(8画) : 「デッチングン便り」について
(9〜10画) : 医大の牛頭天王碑
(10〜12画) : 各地るの は な 会だより
(12画) : 春の叙熱
(13〜14画) : 日本ブライマリ・ケア学会
会長就任にあたり
(14〜15画) : クラス会
(16画) : 二先寛のレリーフについて
(17画) : 平成11年度るの は な 同窓会総会議事録

千葉大学医学部 人事異動

教授昇任

卒後・生涯医学臨床研修部

小児外科(兼務)

田邊 政裕(昭49)

(小児外科学助教授より)

生化学第一

瀧口 正樹(昭56)

(同助教授より)

助教授昇任

麻酔学

佐藤 二郎(昭56)

(同講師より)

外科学第一

山森 秀夫(昭47)

(同講師より)

リハビリテーション部

吉永 勝訓(昭55)

(同助手より)

神経内科学

福武 敏夫(昭56)

(同講師より)

講師昇任

肺研第一

斎藤 幸雄(昭57)

(肺外科助手より)

歯科口腔外科学

鶴沢 一弘(日大松戸歯平3)

(同助手より)

発生生物学

青江 知彦(昭62)

(麻酔科助手より)

第一外科

伊藤 博(昭56)

(同助手より)

脳神経外科

峯 清一郎(昭55)

(同助手より)



効果と相まって、患者さんに好評をいただいている。

食道癌の遺伝子治療

外科学第二講座教授
落合武徳(昭41卒)

平成11年6月、前年度に文部省と厚生省に申請していた食道癌に対する遺伝子治療の臨床計画が承認されました。治療に使用する癌抑制遺伝子p53アデノウイルスベクターが中央薬事審議会の承認が得られ、第2外科において臨床研究を実施することになります。

遺伝子治療は癌に対する新たな治療法として2-3年前から試みられています。近年の分子生物学の進歩によって、癌は遺伝子の異常によって発生することが明らかになってきました。食道癌について云うと、第二外科を受診する食道癌患者の約半数はp53遺伝子の異常が認められており、これらの患者さんでは、p53の異常が認められない患者さんと比較すると、癌の進行度は同程度であるにもかかわらず手術後の生存率が悪いことがわかりました。またp53遺伝子は癌細胞の抗癌剤に対する感受性にも関与しています。

おいて非小細胞肺癌において2例が実施されていますが、食道癌に対する遺伝子治療は世界で初めての試みということになります。今回の臨床研究の対象となるのは、手術による切除が不能の進行食道癌で、内視鏡を用いて癌局所に投与するものです。すでに新聞報道を見た患者さんや家族からは是非やって欲しいという問い合わせを頂いていますが、るのほな同窓会の先生方におかれましても患者さんを紹介して下さいようお願い申し上げます。

辛亥革命記念碑

辛亥革命記念碑について

るのほな同窓会会長

井出源四郎(昭19卒)

第二章 日中友好の象徴

この記念碑は、碑文にも明記されている通り、1912年(大正元年)11月9日建立となっている。今を去ること87年前に当る。

当時の中国は、外からは外国の侵略に晒され、内には清朝末期の墮落した王朝政治が行き詰り、内憂外患革命の気運漸く昂まるといふ状況にあった。

その頃、わが千葉医学専門学校には、39名の中国留

時の校長荻生録造先生であり、学生の要請を享けて文部省、外務省に要望し、戦陣より帰還の後必ず復学せしむるの認可を取り付け、戦陣へ送り出すことを決したと言った。その手続きを経た上で、三輪徳寛先生を筆頭に筒井八百珠先生、井上善次郎先生を中核として、全学教職員は素より、日本赤十字千葉支部の看護婦諸氏の協力も得、挙げて戦時医学の基本とその技術に就て懇切な指導に盡力し、併せて医療機器、薬剤の供与、更には学生の参画を得て仕行の資金調達にも力を貸したというのである。

かくして1911年11月9日盛大な壮行の儀を催し、数百年に及ぶ教職員学生の千葉駅頭における見送りの歓呼が四圍に響いたと言ふ。

1911年秋から翌12年春にかけて孫文先生を盟主として熾烈な戦闘の末、同年3月9日孫文先生を臨時大統領として中華民国樹立を果たしたのである。戦時に駆せ参じた留学生も同年4月頃には帰学することとなり、全学挙げての支援に感謝し、恩義に対する礼節を示すために半歳を費やして記念碑を建立したのである。

然し中国本土に於ては一応の安泰も束の間袁世凱氏

の野望と裏切り行為に依つて革命は挫折。孫文先生はその後幾多の困苦を耐え忍び、第二、第三の革命とも云われる苦難の幾山河を乗り越えて、袁世凱率いるところの帝政軍閥を打倒し、遂に1911年、中国国民党を建立、三民主義をかざして国共合作に手を差し伸べながら、1911年革命の志半ばにして北京の地に没したのである。

その後の四半世紀、中国は諸外国の侵略の残滓を拭い切れず、特に日本軍閥の基だ理不盡な戦争を強いられ幾多の波乱を経て、1949年、漸くにして孫文先生の初心を貫徹し、今日台湾問題などを抱えつつも中華人民共和國として中国全土の統一を成し遂げたことは会員諸侯のご承知の通りである。

今日振り返って考えてみると、この記念碑が物語る事実はまことに美しく心新たまる日中友好の象徴的な結晶のように思えてくる。

同窓の大先輩加藤晋佐次郎先生(大正6年卒)は千葉医大八十五年史の回想の中にこの記念碑に就て觸れられ、千葉大学医学部八十五年史の宝であると認められている。

今後日中の間に何が起こ

ろうとも、医学医療の職責がいかに貴いものであるかを教示しているようにも思う。敵味方を問わず人の命を救い得るというこの職責を担い得ることを同窓会会員の皆さんと共に喜びたい。そしてこの貴重な日中の絆は決して断ち切ってはならないと確信し決意するものである。

に深く感謝と敬意を申し上げます。年8月15日終戦54周年の日
参考文獻
千葉大学医学部八十五年史(1981年)
千葉大学医学部百周年記念誌(1987年)
園田信行・日中科学人材交流百年史(1991年)
沢田勤也・記念碑にみる辛亥革命(いずみ1989年秋)

るのほな同窓会賞

受賞候補者募集要項

第5回(二〇〇〇年度)るのほな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集致します。

一、受賞対象者

①学術賞 本会員(甲および乙)で、医学研究あるいは医療活動の顕著な業績により、学術的あるいは社会的に高い貢献をした個人またはグループ。特に学外の教育研究診療機関に居られる方々、学内では学位取得直後の層からの応募を歓迎いたします。

二、表彰

①学術賞(三件以内) 楯および副賞(総額百五十万円程度)を贈呈します。

②功勞賞(二・三件) 楯および副賞を贈呈します。

③応募方法 所定の申請用紙により、二〇〇〇年1月5日から3月15日までの間に申請して下さい。

④受賞者の決定 選考委員、常任理事会の議を経て、会長が行います。

⑤問い合わせおよび申請用紙請求先 千葉大学医学部内、るのほな同窓会事務局

右選考は、「るのほな同窓会賞募集規定」(るのほな同窓会報第一一六号参照)にもとづいて行われます。

教授就任挨拶

千葉大学医学部生化学第一講座

滝口 正樹 (昭56卒)



8月1日付けで辞令を頂きました。生化学の図書室に掲げられた先達・恩師の先生方の肖像写真を前にして、これから同僚達と共に何をなするかに思いをめぐらせております。

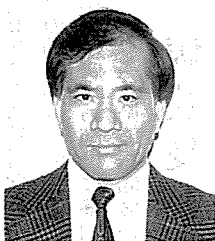
簡単に自己紹介をさせて頂きますと、私は80年に本学医学部を卒業と同時に大学院に進み、橋正道先生の主宰される生化学第二講座で学びました。この年は、生化学第一講座では、三浦義彰先生が退官され、藤村眞示先生が後任となられた年でありました。88年大学院修了後、同年2月に生化学第二講座助教から熊本大学医学部教授に転出された森正敬先生に随行して、熊本大学に赴任いたしました。以来13年間の同大学勤務を経て、昨年4月より藤村先生の御好意により生化学第

一講座助教として勤務いたしておりました。この間、主にオルニチンサイクル酵素遺伝子の転写調節機構の研究に従事いたしました。最近では神経可塑性を統御する遺伝子ネットワークの解析にも着手しております。

近年、大学改革の気運はますます高まりを見せております。千年近い歴史を有する大学ユニバシティの持つ普遍的価値は、社会一般にも広く受け入れられているものと思われまします。変革を求める声は期待の現れとも言えましよう。改革すべき第一点は、研究・教育の未来志向の強化だと思われまします。21世紀は希望の世紀であると同時に、人類の恒久的繁栄にとつては必ずしも予断を許さぬ世紀になるかもしれません。諸問題の解決に大学が大きく積極的に貢献すべきことは当然でありましよう。第二に、社会に対し説明責任を果たすことを中心に広く理解を求めることが重要と考えまします。一般に大学は財政的基盤その他多く

徳島大学歯学部口腔解剖学第二講座

羽地 達次 (九州歯大昭52卒)



平成11年7月1日付けで徳島大学歯学部口腔解剖学第二講座の教授に就任いたしました。

徳島大学歯学部は昭和51年10月に国立大学で8番目の歯学部として設置され、翌52年4月より学生の受け入れを開始しました。口腔解剖学第二講座は昭和54年4月に開設され、私が第三代目の教授にあたります。百年の歴史をもつ千葉大学医学部に比べればまだまだ

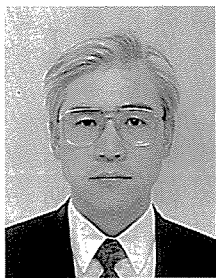
を社会に依拠していることは言うまでもありません。現代社会の公的大学が、納税者に対する義務として、予算を有効に活用し、またその過程、成果を説明すべきことは当然でありましよう。生化学は今日、分子生命科学とも言うべき広がりを見せて、一方関連領域との境界は消失しつつあります。研究の方向性が多様化しており、フロンティアの見極めが難しくなりつつあります

が、新たな発見の可能性は常に無限大です。特に、治療を目指した臨床の基礎としての分子生命科学は今まさに機が熟しつつあると言えます。多数の先天性疾患、癌等の難病の予防・治療に基礎的成果が演繹的に生かされる様、微力ながら努力を惜しまぬつもりです。また、学生にもその気構えを伝えたいと思ひます。ゐのはな同窓会の皆様方の御声援を心からお願い申し上げます。

歴史が浅く、これから発展していかなければならない学部です。私もその一員として、本学部の発展に寄与する覚悟であります。当講座は組織学、口腔組織学、歯牙解剖学の講義と実習を担当し、主として歯学部の2年次生の教育に当たっています。研究の面では、骨細胞の分化における蛋白質脱リン酸化酵素の役割、傷害受容性一次知覚ニューロン、神経組織内の各種酵素の局在を細胞生物学、分子生物学の方面から追求しています。これから教職員、大学院生共々着々と成果を積み重ねていくつもりです。私は昭和52年福岡県立九

長崎大学医学部心臓血管外科

江石 清行 (昭57卒)



だと確信しています。実習その他を通じて感じたことは、千葉大学の学生は真面目で、素直で、勤勉でかつ個性的であるということでした。この印象は現在でも変わりません。本当に素晴らしい学生だと思っています。他方、第二解剖の永野教授、豊田助教、外山講師等多数の先生方と研究や

この度、平成11年4月16日付で、長崎大学心臓血管外科講座の主任教授を拝命致しました。ここに千葉大学ゐのはな同窓会の皆様方に謹んでご挨拶を申し上げます。私は昭和57年に千葉大学卒業後、東京女子医大心臓血圧研究所外科(以下心研)に入局致しました。遅刻で駆けつけた肺研の卒試を山口豊教授の教授室で受けさせていただいた縁で、心研にお世話をお願いできました。伝説ある母校の外科に憧れておりましたが、思考の単

人生について議論しました。多少は大人げない言動をしたこともありましたが、今になれば、すべてが勉強であったと思います。短い在職期間でしたが、本当に貴重な経験をさせて頂きました。

今後とも、同窓の諸先生方の一層のご指導・鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。純な私は治療法が明快な心臓外科のほうが無難かと考え、当時心臓外科を担当されておられました宮内先生が熊本大学教授に栄転されたこともあり、直接心研へ入局することになりました。君たちは心筋細胞のようにならないでね、心研に入局して当時所長であられた高尾教授からいただいたご挨拶には驚嘆致しました。心筋細胞は単独でもたゆまない自動性を有し、集団では一つの方向性に規則正しい強大な力を発揮する。君たちは自ら学習を怠らず、チームの中では患者のために一致協力して診療に精進しなければならぬ。といったような内容だったように思います。翌日には小柳教授に外科の新

その後は、地獄の合宿の
ような一週間で、どこまで
頑張ればいいんでしょう
か？”という私の愚問に、当
時のオーベンであられた先
生が“倒れるまでだ”と的確、明瞭なお返事を下さい
ました。数日後金縛りにあっ
たようにコーヒールームで倒
れている私に“休んでいい
ぞ”と優しいお言葉を下さ
った先輩に、金縛りの口から
はお礼の言葉も出せずに
はがゆい思いを致しました。
最初に小児心臓外科班に配
置になりました私は、下宿に
帰れぬ日々が続く。江石は
パンツを裏返しにした後、前
後ろかえて4・5日はいてる
らしい”という噂が広がり、
創部感染を憂慮されていた
今井教授から“風呂にはい
てからオペ室にこいよ”と
初めてのお言葉を頂き、恥
ずかしい思いを致しました。
なかなか手術のまねごと
も覚えられない私に“一度
みたら、やったことがあるよ
うな顔をしろ！一度やったら
十回ぐらいやったような
顔をしろ！3回やったらもう
プロだと思ってやれ！”

ります。やや多目の術後出血にオロオロする私を「そんなこっちゃー心臓外科はやってられねーぞ!@?」と勇気づけていただき、その後も「出る釘は打たれる。出すぎた釘は打ちようがなない。」と激励して下さいました。国立循環器病センターでは6年間後天性心臓手術を担当致しました。

平成9年4月より岩手医科大学に60周年記念事業として新設されました循環器医療センターに外科学第三講座の助教授として赴任し2年間新病院の創設に参加致しました。循環器領域の

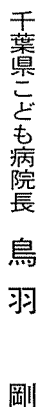
病院長就

千葉県こども病



この度、4月1日付にて初代船橋茂、二代目真家雅彦病院長の後任として千葉県こども病院長を拝命いたしました。

バブル経済の破綻や少子高齢社会の到来と共に、医療とくに小児医療は厳冬の時代ともいわれます重要な時期に、千葉県の小児医療



ります。やや多目の術後出血にオロオロする私を「そんなこっちゃー心臓外科はやってられねーぞ!@?」と勇気づけていただき、その後も「出る釘は打たれる。出すぎた釘は打ちようがなない。」と激励して下さいました。国立循環器病センターでは6年間後天性心臓手術を担当致しました。

平成9年4月より岩手医科大学に60周年記念事業として新設されました循環器医療センターに外科学第三講座の助教授として赴任し2年間新病院の創設に参加致しました。循環器領域の

全ての科が結束、協力することにより予想をはるかに越える効率的診療が可能になることを実感致しました。千葉大の先生をはじめ、いろいろな先輩のご指導、ご鞭撻をいただきながら努力してまいりました実績を評価していただき、この度、長崎大学心臓血管外科を主宰することになりました。日本全国でいろいろな形で活躍されておられる先輩諸兄の教えを財産としてよりよい医療をめざして精進していきますので、今後よく所存であります。

江のご挨拶

院長 鳥羽 剛
 （昭和38卒）

の中枢と自負いたします。子ども病院の舵取り役を務めねばならないことは、私には途轍もない重責ですが、微力を尽くす所存です。今後ともよろしくご支援の程お願い致します。

私どもの千葉県こども病院は、昭和63年10月開院以来、昨春秋で満十周年の節目を迎えることができました。診療実績もこの数年間順調に伸び、入院患者数平均在院日数約17日・外来患者数、手術件数、医業収

支率など多くのデータが先行のことも病院に比肩する所まで成長しました。これもひとえに典型的紹介外来型(紹介率約95%)の高度医療機関である当院を支えて下さった県内の多くの医療機関のご協力の賜物と心より感謝いたしております。

こうして今年からは、当院も新たな10年に向けてスタートを切りましたが、今後もこれまで同様よろしくお願い致します。

ところで最近のことも達は、高度経済成長時代に生じた社会・家庭環境の歪み、学歴中心主義、物の価値感の変化や偏りなど多くの深刻な影響を受け、心身ともに健康面に種々の問題がかかえております。

私どもは、当院の基本理念を「県立の小児医療施設職員としての自覚を持ち、小児の高度医療専門グループとして知識と技能の向上につとめ、それを活用して未来ある子ども達の心身の健全な育成をめざして努力します」として掲げ、努力してゆきたいと思えます。

また、私どもの日本小児科学会は、毎年10月の第2週を「こどもの健康週間」と定め、今年はその10年目にあたりますが、こどもの健康増進キャンペーンを展

開いています。

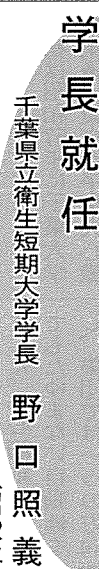
私は、学会広報委員長として全国的にこれを推進する立場にありますが、今年のポスターのキャッチコピーは「元気なこどもは社会の「タカラ」と決まりました。

学長就任

千葉県立衛生短期大学は、教育基本法及び学校教育法の規定に基づき一般教養を高め、保健医療に関する知識及び専門技術者を育成することを目的とし、学校教育法第69条の2の規定による短期大学として、幕張メッセに隣接して昭和59年4月に開学いたしました。

初代長井和行(昭24卒)学長、次いで佐藤壹三(昭21卒)学長、前澤田勤也(昭28卒)学長と設立以来19年目を迎えた県下唯一の公立医療技術系短期大学であります。

第一看護学科3年課程80人、第二看護学科2年課程40人、2年課程の歯科衛生学科、栄養学科それぞれ50



開いています。

私は、学会広報委員長として全国的にこれを推進する立場にあります。が、今年のポスターのキャッチコピーは「元気な子どもは社会の『タカラ』」と決まりました。

まもなく訪れる21世紀
この次代を担うことも達の
心身の健康を増進するため、
私たちは頑張ってみたく
思っています。

ここに重ねてご支援をお
願ひし就任の挨拶とさせて
いただきます。

学学長 野口 照義
(昭32卒)

人、計220人の新入生を毎年
迎え入れ、220人の準学士を
送り出しております。栄養
学科終了者には栄養士免許
が与えられ、看護学科、歯科
衛生学科終了者には、それ
ぞれ国家試験受験資格が与
えられ、今年受験者は全員
合格の快挙を成し遂げまし
た。先輩各学長や各教職員
の努力によって既に300人の
卒業生を輩出し、その大半
は県内医療施設、公共団体、
事業所などにおける医療保
健の分野で実践活動を通じ、
指導的役割を果たしており
ます。そしてこれらの実績を
挙げる事が出来ましたのと同
も、偏に千葉大学医学部同
窓の先輩、後輩の方々の並々
ならぬ協力によるものと
感謝致しております。特に
本学学生の臨床実習施設と
して更には各科の講師とし
てご多忙の処をご支援いた
だいた賜物と改めてここに

お礼申し上げる次第です。

近年、本格的な少子化、高齢化社会を迎え、学生の高校歴志向や様々に多様化した社会の要請に際するため、また一人一人の人格や意志を尊重し、生活と人生の質（ＱＯＬ）にも配慮の行き届いた質の高い幅広く総合的な役割を果たせる人材の育成のために、医療技術系職員養成機関（短期大学や専修学校）の4年制大学や4年制大学の短期大学部への改組転換が急速に進められております。国立大学医学部付属看護学校も医学部看護学科や保健衛生学科あるいは医療技術短期大学部に改組転換され、また国立病院・療養所付属の看護婦養成所においても、学士取得過程をもつ、4年制看護大学校の構想も提案されている現状であります。

医学・医療の高度専門化や高齢社会の到来に伴って、人間理解と的確な判断力や実践力、他職種との調整能力、在宅ケア能力など看護の質の向上が求められている現状で、3年間の履修年限である本看護学科を考えると、時間的にも精神的にもゆとりが無く、学生への負担が非常に大きい。2年過程の歯科衛生学科の履修年限の延長も予定され、2年過程

で卒業の栄養学科学生の管理栄養士受験資格取得の条件負担など、各学科共にそれらを取り巻く外部環境は大変厳しくなってきました。

本学の設立開学当初より非常勤講師として学外より微力ながら協力し、加えてまた本学卒業生の活躍ぶりに、県立短期大学として立派に成長を遂げつつある本学に私なりの愛着と誇りを感じておりますだけに、学長という重大な責務を担うことに大変身の引き締まる思いでおります。

改めて本学の置かれている立場を鑑み、地域に根ざした実学中心の教育と経済的で資格取得など効率的なうえに就職、留学、4年制大学や専攻科への進学など柔軟性や多様性を備えた短期高等教育機関としての設立主旨を認識し、諸問題に取り組んで行かなければなりません。先輩各位更には後輩を含めた同窓各位の忌憚のないご意見、ご指導とご協力を心よりお願い致します。

病院紹介

千葉県循環器病センター

千葉県循環器病センターは心臓大血管および脳血管疾患の専門治療施設として平成10年2月1日に旧県立

鶴舞病院の直ぐ隣りに新設されました。鶴舞は江戸時代末期に遠州浜松から転封された藩主、井上正直が城や藩校の建設、町割りなど城下町としての基礎工事をしたところで廃藩置県になったといわれている由緒ある土地柄です。したがって当時の支配者階級が住んでいたと思われる瀟洒な町並みが今でも残っていて、土地の人たちは鶴舞のことを誇りを込めて「市原の軽井沢」と呼んでいます。

県立鶴舞病院は昭和30年の初めに結核病院として発足いたしました。しかし結核医療の退潮に伴い、昭和40年前後から表面冷却超低体温法による開心手術を手がけるようになりました。そして心臓手術としては当時日本一の成績を上げたことから県立心臓センターの名は全国に鳴り響き、県外各地から見学者が押しかけてい

わゆる鶴舞詣でという言葉が生まれたくらいでした。しかしその後人工心肺の発達などから心臓病院としての勢いが次第に衰えてしまい、昭和60年頃は千葉県こども病院が発足するときにそこに吸収させようという話まで出たそうです。昭和61年に千葉県が「ふるさと千葉5ヵ年計画」を

作成し、そこに循環器病センターの設置案が盛り込まれたところから状況が大きく変化したしました。平成2年に千葉県循環器病センター検討委員会が発足し具体的計画作りに入りましたが、当初はそれを千葉市内に作るべきであるという意見が支配的だったようです。ところがちょうどその頃

東京湾アクアラインの開通が本決まりになり、そこから延びる圏央道のインターチェンジが鶴舞にできる計画があることが明らかになりました。さらに千葉市が政令指定都市になり県から独立した立場になったことから、県立循環器病センターが千葉市になければならない理由が無くなってしまいました。そうしたことからは心臓病院として実績のある鶴舞病院を改組してこの地に



千葉県循環器病センターを建設することが決まったわけですが、この間の事情は旧鶴舞病院長で、当センターの初代センター長である中村常太郎先生（現千葉県国保審査会会長、昭和32年卒）が全てご存知ですので、同窓会の先生方は何かの折にお聞きになれることがあるかと存じます。

千葉県循環器病センターは房総半島のほぼ真ん中、市原市の丘陵部の標高100mほどの丘の上にあります。周辺の森の緑にパールグレーの外観が良くマッチしている大変きれいな病院です。交通は内房線五井駅経由で小湊鉄道の上総牛久駅からバスがタクシー、または外房線茂原からタクシーで来ることもになります。車で千葉方面から来る場合は、京葉道路・館山道を通り市原出口で下りて国道297号線を勝浦方面に約30分走ると上総牛久町に着きます。そこから県道を4km入ったところですよ。

敷地は2.6ヘクタールで、建物は地上5階（一部6階）、地下1階建て延べ床面積2000㎡です。駐車場は652台、区割りされていない空き地を含めると約900台分あります。ベッド数は

220で循環器科・心臓外科が合わせて80、脳神経外科・神経内科が合わせて40、残りの80がその他9診療科のベッドになっており、ICU、CCUがそれぞれ10床です。手術室が5室、心臓血管カテーテル室が3室、R12台、MRI、CT、ガンマナイフ各1台です。生理検査としては心エコー装置3台、トレッドミル負荷心電図装置2台、脳波測定室1室などです。その他敷地内に看護宿舎2棟と医師宿舎1棟（世帯者用10戸、独身者用10戸）、それに職員用の託児所などがあります。

職員は医師51名、看護婦205名など総勢347名、委託を入れると400名を越えます。幹部医師はセンター長、龍野勝彦（昭和42年、心臓血管外科）、医療局長、斎藤肇（44年、皮膚科）、診療部長、鈴木亮（48年、外科）と小野純一（51年、脳神経外科）でいずれも千葉大学出身者です。各科の医師は循環器内科が宮崎彰部長（52年、順大）以下総勢10名、心臓血管外科が村山博和部長（55年、千大）以下8名、神経内科が本間甲一（59年、千大）以下4名、脳神経外科が小野診療部長、小瀧勝部長（53年、千大）以下5名、内科は畦元亮作（58年、千大）以下5名、外科は鈴木診療部長以下合計4名、麻酔科は瀬崎登志彰部長（37年、岩手医大）以下4名、小児科は丹羽公一郎部長（51年、千大）以下3名、整形外科は小野智敏部長（60年、千大）など2名、その他呼吸器科、眼科、耳鼻科、歯科がそれぞれ1名です。看護体制は新看護2対1です。

開院初年度の平成10年の実績では、外来患者数延べ12万887人、一日平均約550人、救急件数430件うち救急車搬入数107件、脳血管・心臓などの循環器疾患患者が40%、外科・内科など一般診療科疾患患者が60%でした。一方入院数は延べ6733人で、循環器関連患者が53%、一般診療科患者が47%、平均病床利用率92%、在院日数19.8日でした。心臓血管カテーテル数1298件、頭腹部血管造影数265例、PTCA184件、カテーテルアブレーション75件、心臓大血管手術数144件、脳血管手術数120件、ガンマナイフ使用患者数189件でした。ところで今年（平成11年度）はこれらの診療が昨年以上のハイペースで実施されており、昨年の実績を大幅に上回ると予想されています。特に心臓大血管手術数は平成11年4月から6月までの3ヵ月間で昨年度

大）以下5名、外科は鈴木診療部長以下合計4名、麻酔科は瀬崎登志彰部長（37年、岩手医大）以下4名、小児科は丹羽公一郎部長（51年、千大）以下3名、整形外科は小野智敏部長（60年、千大）など2名、その他呼吸器科、眼科、耳鼻科、歯科がそれぞれ1名です。看護体制は新看護2対1です。

開院初年度の平成10年の実績では、外来患者数延べ12万887人、一日平均約550人、救急件数430件うち救急車搬入数107件、脳血管・心臓などの循環器疾患患者が40%、外科・内科など一般診療科疾患患者が60%でした。一方入院数は延べ6733人で、循環器関連患者が53%、一般診療科患者が47%、平均病床利用率92%、在院日数19.8日でした。心臓血管カテーテル数1298件、頭腹部血管造影数265例、PTCA184件、カテーテルアブレーション75件、心臓大血管手術数144件、脳血管手術数120件、ガンマナイフ使用患者数189件でした。ところで今年（平成11年度）はこれらの診療が昨年以上のハイペースで実施されており、昨年の実績を大幅に上回ると予想されています。特に心臓大血管手術数は平成11年4月から6月までの3ヵ月間で昨年度

大）以下5名、外科は鈴木診療部長以下合計4名、麻酔科は瀬崎登志彰部長（37年、岩手医大）以下4名、小児科は丹羽公一郎部長（51年、千大）以下3名、整形外科は小野智敏部長（60年、千大）など2名、その他呼吸器科、眼科、耳鼻科、歯科がそれぞれ1名です。看護体制は新看護2対1です。

の50%増しの実績を上げており、ガンマナイフは200%を超える件数を実施しています。このままいくと今年度は年間心大血管手術が200件、ガンマナイフ利用数が350件を超える可能性もあるように思われます。

当センターは循環器病医療の他に千葉県南部の中核病院として地域医療も合わせて行っております。現在旧鶴舞病院跡地に80床の内科・外科病棟・外来を中心とした新館の建設を計画しております。そして本館に同居している内科・外科病棟と外来をそちらに移して、機能の明確化を図っていきたいと考えています。この計画が実現すれば循環器系ベッド及び外来もさらに増やすことができますので、名実ともに千葉県を代表する循環器病センターとして役割を果たせるものと期待しております。

現在の当センターは確かに千葉県の中でも最も田舎の県立病院ですが、職員の熱意と温いもてなしの気持ちは何処にも負けないと自負しております。そして新しい思いは確実に患者さんや新しい職員の心をとらえ始めています。今後圏央道をはじめ周辺の道路網が整備されていけば鶴舞はもは

や過疎地ではなく、患者さんにとっては都市近郊には珍しい療養環境に恵まれた病院として、また職員には千葉や成田、川崎からも楽に通動できる交通至便な病院として親しまれるであろう

(龍野勝彦・昭42)

あのはな同窓会賞 受賞者の言葉

功労賞

日本川崎病研究センター所長
川崎富作(専23卒)

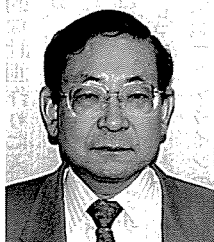


筆者は昭和23年4月から24年3月までの1年間、千葉医大附属病院でインターン生活を送ったが、各科をローテートして、将来、小児科を専攻したいと考えた。当時は敗戦後の厳しい生活条件下にあり、大学に残らず、どこかの病院小児科に勤めて、月給をもらいながら小児科を学びたいと、極めて虫のいい考えで、インターンも終る頃、同じ内房線を通じていた久保政次助教授(当時)に相談に伺った(久保先生は浜野からで、筆者は姉崎から)。すると、久保先生は、それはよくない。ど

んなに経済的に苦しくとも、最低1年は大学の医局に残るべきだ。1年浪人したと思えばよいだろう。と強くアドバイスして下さった。今振り返ってみると、この久保先生の適切なアドバイスがなかったら、筆者の人生は全く別のものになっていたであろう。人生とは誠に不思議なものである。もう50年前のことであるから、多分、久保教授はお忘れのことと思うが、筆者には生涯忘れ得ぬ思い出である。そこで、インタンの終った4月のある日、当時の佐々木哲丸教授を尋ねて、入局の希望を申入れた際、経済的理由で、長く医局に残れませんが、よい勤め口があったら、紹介して下さい」とズーリしくも申し出て、研究生の手続きをさせていた。そして、国家試験発表後の5月中旬、他の同級生5人と共に正式に入局を許可され、早速、ネーベンとして患者を受け持ち、小児科医としての第一歩がスタートし、生れてはじめて生甲斐を感じ、朝早くから病室に行き、患者を診るのが何よりの楽しみとなった。かくて、あつという間に半年が過ぎた12月下旬のある日、佐々木教授から日赤中央病院小児科を紹介され、翌昭和25年1月4日から勤務が叶い、月給までいただき、その上、よき指導者(複数)に恵まれ、爾来丸40年(1950-1990)小児科医として充実した人生を日赤で送ることができた。今回、いのはな同窓会賞受賞を期に、筆者の人生の岐路に際して、重要且適切なアドバイスをして下さった久保政次助教授に心から感謝の意を表する次第である。

昭和大学教授

栗原 稔(昭36卒)



このたび、大藤前教授、嶋田教授他諸先輩の御推薦により本会の功労賞を戴く栄誉を賜り、身に余る光栄と感激致しております。特に本学が世界に誇る川崎富

作先生、谷川久一先生との同時受賞は、錦上添花添えるものと喜んでおります。私は、昭和36年本学を卒業、大学病院でインターン後第一内科に入局、大学院(三浦義彰教授の御指導)の後半を白壁研究室で胃X線、内視鏡診断を学び、昭和41年5月国立がんセンター放射線科診断部(市川平三郎部長)、昭和43年11月順天堂大学消化器内科(白壁彦夫教授の御赴任と同時に)、昭和55年7月埼玉医科大学第三内科助教授(主任伊藤進教授)、昭和57年8月昭和大学附属豊洲病院内科教授、昭和59年9月新設の消化器科医長、平成5年4月副院長兼務、平成8年4月以来院長を兼務中です。

この間、消化管の診断法の研究を根幹にして、国立がんセンター在職当時から抗腫瘍治療の研究にも携わって来ました。抗腫瘍治療の進歩と共に、欧米に少なく本邦に多い原発胃癌の効果判定法を研究し、胃癌取扱い規約に採用の生存期間と相關する判定法を提案し、欧米にも認めてもらおうと努めています。今回の賞牌に刻まれた「がん薬物療法におけるQOL評価」は、平成元年4月より厚生省がん研究助成金(2期4年間)

深く感じいております。心よりお礼申し上げます。小生、21年間つとめました久留米大学医学部第二内科教授を昨年定年退職しましてから、現在、米国公益法人国際肝臓研究所を設立し、活動の場としております。また社団法人日本肝臓学会(会員約1万人)の理事長をつとめて4年目となり、同学会の発展に全力を尽くしてまいりました。

かえりみますと、恩師三輪清三教授がはじめて肝臓病の研究を始められてから今日に至るまで全国的にも先生の門下である伊藤進(埼玉医大)、小幡裕、林直諒(いずれも東京医大)、小俣政男(東大)の諸先生が肝臓病の分野で活躍されてこられました。私自身もこの様な流れを大切に、少しでも役立つように努めたいと思っています。幸いにして退職後は多少とも時間的余裕が出来ましたので、同窓や同門、同級の方々と交わりを通じて、母校の発展を考えてゆきたいと思っております。

久留米大名誉教授

谷川久一(昭32卒)



長らく千葉を離れ、目先のことに追われて母校のため何も出来ずに今日に至りましたにもかかわらず、この度のあのはな同窓会功労賞にご推薦戴きましたことに、



よろしく御指導下さいますようお願い申し上げます。

学術賞
千葉大助教授
青才文江(広大昭48卒)



るのほな同窓会学術賞を受賞させて頂きました。有り難うございました。お礼申し上げます。以下、本研究に至りました経緯と研究の一端を述べ挨拶に換えさせて頂きます。

私は大学卒業後、8年間小児科医として主に小児の腎疾患・腎不全に関わり、腎移植後の免疫抑制療法の基盤となる免疫学を勉強したいと考えておりました。丁度その頃、現在も一貫して指導を仰いでおります矢野教授に出会い、免疫反応を司る免疫担当細胞に抗原提示細胞と言う細胞があり、抗原提示細胞の指令によって特異的T細胞が活性化されることを学びました。我々の教室では11年前にトキソプラズマ症患者末梢血中に感染細胞にのみ特異的細胞傷害活性を示す細胞傷害性T細胞の存在を証明して以来、一貫して細胞内寄生原虫の感染細胞内における抗原処理・提示機構と防御免

疫誘導機構の解析をすすめております。

トキソプラズマは、リーシュマニアやマラリア原虫らと共に代表的な細胞内寄生原虫であり、その感染症に対するワクチン開発には細胞性免疫反応を介した防御免疫反応の誘導が必須であります。可溶性寄生体抗原のみでは細胞性防御免疫反応は惹起されなくそのワクチン開発は困難を極めています。我々はこれまでトキソプラズマをプロフェシヨナル抗原提示細胞に感染させてマウスに免疫することにより、100%の防御免疫を成立させることに成功しています。また、感染細胞内抗原処理がエンドジナス経路を介することを明らかにしました。これらのことから、プロフェシヨナル抗原提示細胞にワクチン候補分子遺伝子を導入し、細胞性防御免疫反応を増幅・誘導することを考えました。

次に、ワクチン候補としてトキソプラズマ主要表面抗原SAG1遺伝子をTA Pトランスポーター欠損抗原提示細胞株に導入し、*ex vivo*ワクチン効果を報告しました。さらに、細胞内蛋白質のフォールディングや分子の移動などに不可欠な分子シャペロンである

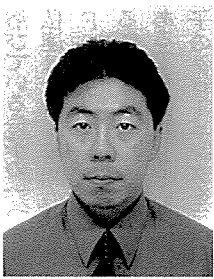
熱ショック蛋白質が、トキソプラズマ感染宿主細胞内における抗原提示機能分子として防御免疫反応誘導に関わる重要な分子群であることが判って参りました。

本研究ではこれらのワクチン候補分子遺伝子を宿主の最も強力なプロフェシヨナル抗原提示細胞である皮膚ランゲルハンス細胞・樹状細胞に、遺伝子銃を用いて直接遺伝子導入し、ワクチン分子蛋白を増幅発現させ宿主防御免疫を誘導し、それに関わる細胞性免疫反応惹起機構の解析をすすめております。

多くの細胞内寄生原虫感染症の標的が小児であり、これまで進めて参りました抗原提示機構解析の研究が小児期の難治性感染症に対するワクチン開発に結びつきますことに喜びを感じております。受賞を励みに今後の研究を致して参りたいと思います。

~~~~~

千葉大助手  
鶴澤一弘(日大松園平3卒)



この度は、栄誉あるるのほな同窓会賞学術賞をいただき、大変光栄に思い、また心より感謝いたします。

私は、平成8年に千葉大学大学院医学研究科を卒業し、当時主任教授であった佐藤研一名誉教授のお勧めで、また、当教室現教授の丹沢秀樹先生のご紹介により、平成8年10月より、米国North Carolina大学歯学部(Prof. Mitsuo Yamachin)に約2年間留学をさせて頂きました。今回受賞いたしました研究は、この2年間の成果をまとめたものです。Yamauchi博士は、コラーゲンの架橋産物(collagen cross-link)の生化学的分析については世界的に有名で、特に骨研究の分野では多くのZinc quantを長年継続して参っており先駆者的存在であります。コラーゲン分子におけるリジンの水酸化は、コラーゲンの架橋産物の形成に重要な役割を果たしており、その度合いは組織特異的で、骨をはじめとする硬組織では高く、皮膚をはじめとする軟組織では低いというところ、さらに骨と皮膚とはcollagen cross-linkのパターンが全く異なっているということはすでに明らかにされていきました。

しかし、それらの分子レベルでのメカニズムは全く不明でした。現在までにリジン水酸化を担う酵素は3種類知られており、またそれらをコードする遺伝子(LOD1, LOD2, LOD3)が最近同定されました。本研究で、LOD3遺伝子が、骨のcollagen cross-linkの生合成に特異的であることがはじめて明らかとなり、このことからLOD3遺伝子はcollagen cross-linkのパターンを決定する一つの重要な因子で、その機能異常は骨粗鬆症を含めた各種骨病変に関与している可能性が考えられます。この研究は、米国NIH, Duke大学、そしてNorth Carolina大学の3つの施設が共同で行ったもので、本当に多くの先生方にご指導をいただきました。現在も当教室を含めた共同研究が継続されており、骨研究の分野を、リジン水酸化酵素とcollagen cross-linkというユニークな視野からとらえていければと思っております。今回の受賞を励みに一層の努力を重ねていく所存でありますので、今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

千葉大助手  
下山恵美(昭59卒)



この度はるのほな同窓会賞学術賞をいただきまして、誠にありがとうございます。私はこれまで臨床に直接結びついた「いたみ」の研究を行ってまいりましたが、なかでも癌性疼痛、特に通常のオピオイド治療に反応しない難治性癌性疼痛の治療法の開発に力を入れてまいりました。

私が癌性疼痛の治療に携わるようになったのは12年前、千葉大学附属病院で現在麻酔科名誉教授の水口公信先生にターミナルケアのご指導を受けた時からでした。当時はWHOのラダーに則った治療もまだ完全に普及しておらず、十分なオピオイドが使われないために苦しんでいる患者さんがしばしば見られました。モルヒネを増量することで多くの患者さんの疼痛が軽減されました。しかし、その中で、モルヒネを増量しても十分な除痛が見られなかったり、副作用のためモルヒネが十分投与できない患者

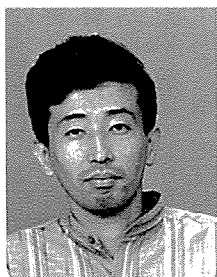
さんもいることを知りました。特に、神経の圧迫や浸潤による、いわゆる神経障害性疼痛のコントロールは困難でした。また、モルヒネ必要量が徐々に増加し、膨大な量のモルヒネを必要とする患者さんもみられました。癌性疼痛のコントロールにおけるオピオイド療法の重要性は十分認識しながらも、オピオイド単一療法には限界があると痛感いたしました。

平成7年4月より現在国立がんセンター中央病院疼痛緩和ケア医長の夫とともにニューヨークのスローンケタリングがんセンターへ2年間留学いたしました。WHOがん疼痛治療指針をまとめたK・フォリー先生のもとで、緩和ケアを勉強させていただきました。最前線の緩和ケアのシステムには、目を見張るものがあり、大変勉強になりました。しかしその反面、このような癌治療の最先端の場でも、難治性癌性疼痛の管理に苦慮していることもわかりました。緩和ケアの勉強と平行して、私たちはコーネル大学医学部薬理学教室のC・イントゥリシ教授のもと、モルヒネ耐性、神経障害性疼痛の研究をさせて頂きました。ここで私たちは難治性がん

性疼痛に有用な治療法の開発を主眼に基礎研究を行い、いくつかの成果をあげることができました。帰国後は千葉大学第2生理学教室及び麻酔学教室にてこの研究を継続しております。今後も今回の受賞に恥じないよう研究に力を入れてまいりる所存であります。今後ともご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

#### 順天堂大助手

中野裕康(昭59卒)



この度はるのな同窓会賞学術賞をいただき大変ありがとございました。私は昭和59年に千葉大学医学部を卒業し、その他の大多数の同級生と同じで、臨床医になろうと肺癌研究施設内科(当時は渡辺昌平教授、現在は栗山喬之教授)に入局致しました。以後5年間は呼吸器内科医として呼吸器疾患の臨床に携わっていましたが、肺癌あるいは肺線維症で亡くなっていく患者さんを前にして現代医療の限界というものを痛切に感じました。そこで肺の病

巣局所で起こっている現象を知りたいと思い、結核予防会結核研究所の病理部門の研究員として2年間、主に肺の病理の勉強をさせていただきました。その過程で病気の本質を理解するためには、やはりもっと基礎的なことをやらなくては行けないと思い、斎藤隆教授の遺伝子情報分野にて、T細胞受容体を介するシグナル伝達機構の解析を主な研究テーマとして研究させていただきました。その後、平成7年より奥村 康教授の順天堂大学医学部免疫学教室にて研究を続けております。奥村先生は「金は出すが、口は出さない」をモットーとしており、私も着任以来自分のアイデアで自由に研究をやらせていただいております。私は主にTNFレセプターファミリーを介するシグナル伝達機構の解明をNF- $\kappa$ Bという一つの転写因子にターゲットをしぼり、研究を続けております。ご存じのようにNF- $\kappa$ Bという転写因子はTNFやIL-1などの炎症性サイトカインの産生や種々の接着因子の発現に関与しており、ここ数年の研究によりアポトーシス抵抗性遺伝子の発現にも関与していることが明らかにされ、最も注目を

浴びている分子の一つです。私達はこの4年間の間にNF- $\kappa$ Bの活性化に関与する新たなアダプター分子であるTRAF5という遺伝子のクローニングを行い、最終的にはこの遺伝子のノックアウトマウスの作製に成功致しました。客観的にみて、私達のこれまでやってきた仕事がどれだけ、独創性に富んでいるかという疑問は残りますが、多少なりともこの分野におけるサイエンスの進歩に貢献できたのではないかと考えております。最後になりましたが、今回の受賞の対象となりました

仕事は国内外の複数の研究室との共同研究によりなされたものであり、特にサイエンスの初歩からご指導いただいた斎藤隆教授、ノックアウトマウスの作製でお世話になった谷口克教授、古関明彦教授、これまで自由な雰囲気でご研究をさせていただいた奥村康教授をはじめとした諸先生方にご場をお借りしまして深謝いたします。今後この賞を励みと致しまして頑張っ

ためたと自称する随想文から、日本医事新報に寄稿されたものを中心に編集されたものであります。まるで方向感覚のない私には、ゲッティングなる高名な都市がドイツのどの辺に位置しているのかさっぱりわかりませんが、どうやら北部の寒さ厳しき地方のごとく、さすが春の訪れは「えもいわれず美しい五月」とハイネの詩う、かぐわしい季節と歓迎されるようであります。

多くあります。本書にはヨハネス・ブラームスのもっとも美しい作品であるあの弦楽六重奏曲第二番に秘められ失われた恋の物語りなど、音楽の話も少なからず登場しますが、これは著者の趣味もさながら、お嬢さん方が優れたヴァイオリニストであることにも起因しているものであります。さて本書の重要な話題としては高野君の専門とされる電気生理学上の諸問題、特に破傷風発症機構にかかわる論議があります。私は鈴木正夫教授の超難解な講義の後遺症(?)からこの方面の理解力に乏しく正確に内容を評価、お伝え出来ませんが、基礎的データを積み重ねつつ、これまで久しく常識とされてきた教科書的記載の不備を指摘し、それを直すという高野君の不屈の闘志を行間に覚えます。

りません。ドイツ語の講義の苦勞話、鍼医としてのアトピー疾患治療体験記など奇談も盛り込まれ、本年の夏の暑さは老骨には格別厳しくたたえるなどとぼやいておりましたが、本書を一読、あたかも緑陰に入って涼風にめぐまれたかの感がありました。

#### 著書紹介

### ゲッティング大学教授 高野光司著 「ゲッティング大学便り」について

近藤 洋一郎(昭33卒)

私たちのクラスが亥鼻の医学部に勢ぞろいしたのは45年ほど前——昭和29年(昭和)のことでありましたが、その学生たちの中にやや大人びた、一見ドイツというところのWandelaar(さすらい人)を彷彿させる風貌の男——高野光司君が含まれておりました。彼は実に「原語」でシューベルトの美しき水車小屋の娘、第一曲「Das Wandern」を口ずさみながら学内を闊

歩し、ドイツ語と音楽の双方に、少なくともわれわれ一般学生よりも優れた才能を有していることを印象づけておりました。高野君は卒業当時第一生理学教授であられた鈴木正夫先生の門に入り、やがてドイツはゲッティング大学へ転じ、さらに教授に昇任、通算すると30年の余を彼の地で過ごされたのであります。本書は、高野君が日本語を忘れないために折々した

### 病院・医院だよりの原稿を募集しております

病院だよりについては、これまで、国公立病院に関するものが大部分でしたが、私立病院や医院のお便りも積極的に掲載しますので、奮ってご寄稿下さい。

#### お知らせ

るのな同窓会事務局では、卒業年次別クラス名簿リスト、地域別会員リストおよび郵送用住所ラベルをご希望により作成いたします。詳細は同窓会事務局にお問い合わせ下さい



# 医大の牛頭天王碑

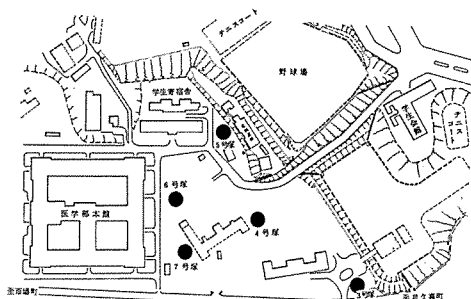
千葉大学名誉教授  
大谷 克己

千葉市を流れる都賀川は、下総台地の西北を回って千葉港に注ぐ。この台地の鼻先が亥鼻台である。亥鼻の南に続く台地が矢作台であり、西のそれが葛城台である。千葉医大の構地は広く、亥鼻と矢作の両台に跨るが、これら両台のうち亥鼻台に俗にいう千葉の七天王塚がある。七天王塚のうち五塚は千葉医大の旧附属医院の南側に散在し、残る二塚は旧東金街道が北に向って、いわゆる大学坂となつて終る頃、その西側にある。

## 一、七天王塚の現況

千葉の里人は、これら七塚を牛頭天王の七塚と呼び、昔から畏敬の念を持って守ってきた。この七天王塚は

図1 七天王塚の配置 (昭和53年、製作)



「図1」に示した如く、一号から七号までの番号がつけられている。ところが昭和53年4月になって第五号塚に問題がおこった。

それは医学部が長年待望していた学生寮の建設費1億3千万円の交付が文部省から認可されたが、予算内で土地を整備し、寮を新築するには、第五号塚が精神科の小講堂を撤去せざるを得なくなったからである。小講堂の撤去については精神科の強い反対があった。他方、五号塚を壊す事については、崇りを恐れて引き受ける業者がいまいという事を口実にして事務部は承諾しなかった。その結果、医学部の構地に関する委員会が検討する事となり、私が代表して「七天王塚は安永2年(1773)に造営されたものである

ので、一般に信じられているほど古くない。しかし、千葉市は史跡の乏しい所であるから、伝承的でも千葉氏と結びつけたものがあれば保存することが望ましい」と答申した。これにより小講堂は壊され、第五号塚が残された。これら七塚の大きさは、いずれも10mの円ないし類円形にみえた。また、その高さは第一および第二号が1.5mほどの小円墳を思わせ、残りの五塚すなわち医大の構内のものは、高さ0.5m程度の盤状であった。塚の周辺は昭和8年に附属医院が建設された時に生じたおびただしい残土の後始末の一部として埋められた形跡がある。

土地の地主から、市長の境界確認依頼書を添え、境界を越えて張り出してきた樹の太い枝を切り下ろしてもいいというの要求があった。当時は医学部長が外国出張中のことでもあり、私が代理としてこれを受けた。境界を掘ってみると、それを示す石があり、確かに地主の主張の如く枝が大きく伸び、土地の利用面積を著しく妨げていた。そこで、枝の切断には同意せざるをえなかった。しかし、「この木には崇り説があって、市内にはこの木を切断するための作業員がえられない。また七天王塚には奉賛会がついているので、無用の摩擦を避けるためこの人々と話し合いのうえ、地主側の作業員によって切断してほしい」と返事をした。ところが問題の枝は、その後いつまでもたっても切断される事はなかった。しかし、平成10年12月に構内の諸木が切断された時、合せて牛頭天王塚の樹および楠の枝も切り落されたと聞く。

七天王塚の老木の根元には(写真1A・B)高さ50cm足らずの数基の石碑がひっそりと並んでいた。風化のため碑面を読むことができないものも若干あったが、石碑の形、大きさを参考と

することが望ましい」と答申した。これにより小講堂は壊され、第五号塚が残された。これら七塚の大きさは、いずれも10mの円ないし類円形にみえた。また、その高さは第一および第二号が1.5mほどの小円墳を思わせ、残りの五塚すなわち医大の構内のものは、高さ0.5m程度の盤状であった。塚の周辺は昭和8年に附属医院が建設された時に生じたおびただしい残土の後始末の一部として埋められた形跡がある。

土地の地主から、市長の境界確認依頼書を添え、境界を越えて張り出してきた樹の太い枝を切り下ろしてもいいというの要求があった。当時は医学部長が外国出張中のことでもあり、私が代理としてこれを受けた。境界を掘ってみると、それを示す石があり、確かに地主の主張の如く枝が大きく伸び、土地の利用面積を著しく妨げていた。そこで、枝の切断には同意せざるをえなかった。しかし、「この木には崇り説があって、市内にはこの木を切断するための作業員がえられない。また七天王塚には奉賛会がついているので、無用の摩擦を避けるためこの人々と話し合いのうえ、地主側の作業員によって切断してほしい」と返事をした。ところが問題の枝は、その後いつまでもたっても切断される事はなかった。しかし、平成10年12月に構内の諸木が切断された時、合せて牛頭天王塚の樹および楠の枝も切り落されたと聞く。

七天王塚の老木の根元には(写真1A・B)高さ50cm足らずの数基の石碑がひっそりと並んでいた。風化のため碑面を読むことができないものも若干あったが、石碑の形、大きさを参考と

して碑文の大部分を読み取ることができた。石碑は8種類。そのうち造営年月が最も古く、かつ、いずれの塚にも見ることができたものが1種類あった。それは正面の題銘が「堀内牛頭天王」。協の施主銘が「大治元丙午六月朔 平常重代」。造営銘が「安永二癸巳造営」と刻してあった。

二、牛頭天王塚の史跡認定  
千葉市は昭和35年3月に牛頭天王七塚を千葉市指定史跡と認定し、昭和49年3月の日付で次の文を各塚に掲げた。

千葉大学附属医院裏に散在するこの七つの古塚は「七天王塚」と呼ばれ、疫病、災害を除く神として崇められている。塚の上の石碑に刻まれる「牛頭天王」は千学集に記される千葉の守護神は曾場鷹大明神、堀内牛頭天王云々に相当てら

れる。猪鼻城の大手口に七つの塚を千葉氏の崇敬する北斗七星の形に配置し、牛頭天王を祀り一族の繁栄を祈ったものである。また一説に千葉氏の七人の兄弟を葬った墓とか平将門の「七騎武者の墓」とも伝えられるが定かでない。

千葉市教育委員会  
昭和49年3月  
右の教育委員会の記載には、石碑の造営者については何も述べていないが、総葉概録および妙見実録千集記から考察すると千葉常重代の銘を刻した一連の石碑は、妙見31代 座主 常妙法印により安永2年造営された可能性が高い。

三、葛城台の牛頭天王碑  
千学集抄によれば、千葉常重が初めて千葉を開いたのは跡形もなく消えさり、代って大手建設会社の手による住宅があった。尋ねると47年には整地され、53年の初めには住宅が建てられていたとの事であった。



写真1A 第7天王塚



1B 第7天王塚の石碑

将来の研究のためとりあえず、この塚を「零」号と呼ぶ事にした。



写真2 葛城台の零号塚

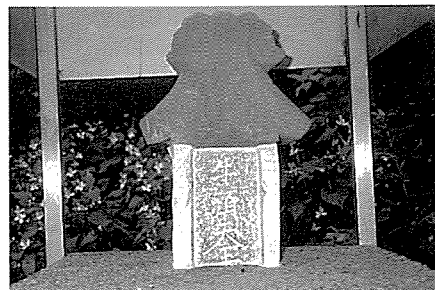


写真3 伊藤家の牛頭天王碑

る位牌および諸々の書類から先祖を尋ねていただき、伊藤家第五代の「頭徳院静応陽訪居士通稱 伊藤四郎兵衛文政12年(1800)没」さんが奉納したと考えられた。

平成7年7月初め、再度KYさんの来訪を受けた。その話は親戚一同で相談の結果、伊藤邸の牛頭天王碑を千葉寺に移したということである。

その場所は本堂の前を左手に曲がり西門近くの右手銅板葺の祠の中である。

## 五、牛頭天王の由来

平安時代の伊呂波字類抄によれば、牛頭天王はインド北方の九相国に発し、祇園精舎の守護神となり、天山路をへて中国に、次いで朝鮮にわたったという。日

石碑は伊藤家の前庭の祠内に祀られ、高さ31cm、横14cm、奥行14cm。猪の鼻の牛頭天王碑に比べて一回り小柄であった(写真3)。石碑の正面に牛頭天王、右面に伊藤四郎兵衛、左面に文政5年8月吉日と刻んであった。また石碑の傍らに立札があり、それには伊藤つねさんから子孫にあてた文が記載されていた。KYさんおよび親戚の方を煩わせ、伊藤家に保存されてい



写真4A 韓国春川市牛頭洞に所在する牛頭山(権寧運博士写)



写真4B モイと呼ばれる古塚(権寧運博士写)

本書紀の一書によれば、その地は新羅の曾尸茂理の牛頭方、すなわち、今日の韓国江原道の春川にある牛頭山(写真4)である。牛頭天王、すなわち、後の素戔鳴尊は子五十猛神を伴い、海を渡って東の方筑紫に至る。その後の足取りは室町時代の「二十二式註式」、江戸時代の「和漢三才圖會」、明治の「古事類苑」の三著に記載されている。すなわち、まず播磨国明石の浦に垂迹し、次に同国の広峯、さらに山城国の北白川の東光寺をへ、祇園天神堂および感神院を遷座している。

この牛頭信仰はどのような教義をもって中国を経たかという事は不明であるが、柴田によると韓国を経てわが国に伝えられる過程において陰陽道の宿曜信仰と結びついて、天刑星と同一視されたと言った。また延長年間に選進された備後風土記逸文によれば、武塔神、すなわち牛頭天王は素戔鳴尊と習合して蘇民将来とかかわりを持ち、さらに奈良から平安時代にかけて盛んになった御霊信仰と習合して疫病(防疫神)、および災害(除厄神)から人々を守る神となった。

そこで地方に赴任する国司または鎮守府將軍らは赴任先の国衛の守護神として祇園社からの分霊を勧請した。また地方の有力な社寺も悪疫退散を願って境内に祇園社の分霊を迎えた。さらに武家時代になると地方の領主ら、例えば下野国守護職の小山氏、福島田島を領有した長沼氏、下総猪鼻城の千葉氏、尾張幡城主

びついで、天刑星と同一視されたと言った。また延長年間に選進された備後風土記逸文によれば、武塔神、すなわち牛頭天王は素戔鳴尊と習合して蘇民将来とかかわりを持ち、さらに奈良から平安時代にかけて盛んになった御霊信仰と習合して疫病(防疫神)、および災害(除厄神)から人々を守る神となった。

の織田氏など、いずれも城の守護神として牛頭天王を祀った。

牛頭信仰の中心は京の八坂神社であったがそれに劣らず発展したのが尾張の津島神社であった。両社は共に三千の勧請社を傘下に持った。これら両社にはそれぞれ御師(下級の神官)があり、伊勢神宮の御師達が全国に向って伊勢信仰を普及した如く、牛頭信仰を広めた。

## 参考文献

- 1、千葉の牛頭天王 大谷克巳 千葉市教育委員会 昭和57年10月
- 2、千葉の牛頭天王(改訂版) 大谷克巳 大谷克巳教授退官記念会(千葉大) 1988年10月
- 3、千学集抄 奥山市松校訂 改訂房総叢書第二輯 史伝(二) 昭和34年5月
- 4、千葉県郷土資料刊行会 復刻 昭和47年5月
- 5、総葉概録 磯辺昌言 掲載は文献(3)
- 6、妙見実録千集記 掲載は文献(3)
- 7、葛城の牛頭天王祠 大谷克巳 千葉文華28号 平成5年3月
- 8、千葉寺に移った牛頭天王碑 大谷克巳 千葉文華32号 平成9年3月

## 各地るのな会だより

## 安房るのな会

平成11年4月16日(金)安房るのな会(会長野原宏)が、千葉大学医学部小児科学河野陽一教授をお迎えして開催された。会に先立ち、館山の千葉県南総文化ホールにて『食物アレルギーの臨床像』と題し、安房医師会学術講演会として河野教授のご講演がなされた。青木安房医師会長の『伊勢えびを生食すると耳がかゆくなる』とユーモアを交えた謝辞があり、席を移して総会となった。最初に、故人となられた高尾巖(専25)、伊賀多朗(昭22)両先生のご冥福を祈り黙とうを捧げた。河野教授より最近の学内



情勢を伺った後、会長交代(野原→本位田)の報告があり、現会長、新会長の挨拶の後、懇親会となった。出席者 野原宏(専17)、本位田泰介(昭28)、貴家昭而(昭30)、蟹澤晴子(昭32)、原久弥(昭34)、西川義明(昭34)、青木謹(昭36)、関谷信平(昭38)、渡辺伸宏(昭39)、中村宏(昭43)、上村公平(昭50)、渡辺啓治(昭61)

(関谷信平・昭38)

## 東京るのな会

つゆの晴れ間の7月17日に東京るのな会総会が恒例の椿山荘において開催された。今回はたまたま、いくつかの会と重なり、出席者は45名であったが、来賓として井出源四郎全国会長、また近県から沖眞澄(群馬県)、柴崎晃(栃木県)、富田裕(神奈川県)の各県るのな会長の先生方に御参加頂いた。総会は午後2時から貫洞一夫会長の挨拶から始まり、会計報告(赤畑正光経理部長)、会務報告(小杉秀雄支部長・村瀬靖会報編集委員長)、および勤務医部会報告(浜野恭一勤務医部長)があり、特別講演として井出先生から「千葉大学るのな同窓会の歩みと展望」と題して御話を拝聴した。



幾人かの先輩の御苦労のたまものによって、この会が発展してきたいきさつを話され、また本題以外の蘊蓄のある奥深い余話、とくに中国での体験談、さらに中国故事の解説などをユーモラスに語られ、結論として歴史の重要性を説かれて全員一同感銘をうけた。

ついで懇親会に移り、先づ今年度のものはな同窓会功労賞を受賞された川崎富作先生、栗原稔先生から感謝と御喜びの話を伺い、ついで来賓の先生から各県のものはな会の活動状況をお聞きし、今後ともお互いに交流を深めて行くことが要望された。ついで加納六郎前会長の御発声による乾杯のあと、若い会員の自己紹介があり、杯を傾けながらなごやかな雰囲気の中、語り合いが続けられ、楽しいひとときを過ごした。



東京のものはな会のeventは新年会、総会の年2回である。現在の会員数は約1200名で、開業医と病院勤務医と丁度半々であり、また新卒者約20名が年々増加している。縦と横とのきづなをより強めて行く組織作りが必要で徐々に進められつつあり、その対策の一つとして会報「Inohana Tokyo」が3年前から発行され好評を得ている。更に本年度から勤務医部からの会報も発刊の予定であり、これからが会員相互の掛け橋となることが期待される。

(小幡 裕・昭28)

### 中京のものはな会

平成11年6月23日、名古屋ヒルトンホテルで、中京のものはな会を開催し、9名の会員が集合しました。中京のものはな会は愛知、三重、岐阜3県の会員を対象にし現時点で38名の会員がいます。

岐阜大学眼科教授の北澤克明先生は翌日より海外出張ということで、出席なさいませんでした。名古屋立大学整形外科教授の松井宣夫先生の御発声で会がはじまりました。

平成10年12月に逝去された佐々木三雄先生(昭和26卒)のご冥福を祈り黙祷いたしました。

母校を遠く離れ、千葉大の話をする機会は年に一度のこの会だけということもあり、大学時代の思い出話で、瞬く間に時間が過ぎていきました。

のものはな会員の皆様で、当地に赴任する事がありまして、森田まで御一報下さい。

社会保険中京病院透析療法科 052-691-7151

出席者 米本昭彦(昭29)、松井宣夫(昭38)、市川(蛭田)清子(昭41)、岩間汪美(昭43)、吉田行夫(昭44)、伊藤文二(昭45)、山口英明(昭50)、森田(石井)弘之(昭56)、三好幸次(昭63)

(森田弘之・昭56)

神奈川のものはな会

平成11年度神奈川のものはな会総会が開催されました。



平成11年7月10日(土)午後6時から、例年のように、横浜駅西口のホテルリッチ横浜で、神奈川のものはな会総会、懇親会が開かれました。

今年度は来賓に、本部から、のものはな会会長の井出源四郎、鈴木信夫(第二生化学)、静岡のものはな会宮本恒彦、千葉のものはな会窪田叔子、薬友会神奈川支部武城昇一の諸先生をお招きしました。

富田会長挨拶に次いで、昨年度中に亡くなられた会員、梅澤勉(昭17卒)、府川幸三(昭26卒)、森本一善(昭3卒)、桐渕達次(昭16卒)、越川英夫(昭16卒)の皆様は黙祷を捧げた後、10年度庶務報告、決算、11年度予算の承認を頂きました。

来賓を代表して、井出先生にご挨拶頂き、続いて、今年の記念講演は、鎌倉市山崎の、元の北大路魯山人窯で作陶を続けられている陶芸家、河村又次郎さんのお話をうかがいました。

記念講演後、参加者全員の記念撮影を行い、懇親会に入りました。

15名の神奈川出身者の医学部学生を招待し、総勢61名の賑やかな立食パーティーとなりました。

ここで神奈川のものはな会総会の特徴をあげてみます。

神奈川のものはな会の総会は毎年、7月の第一、もしくは第二土曜の夕刻開始とこの10年、慣例となっていました。年刊の会報「かながわのものはな」は、この日に会員にお渡しできます。この会報によって会費の納入が安定してきました。会報には総会記事、会員寄稿、地区だより、病院訪問の他、参加者の記念写真が1ページ大で掲載されています。皆さんの経時変化がよくわかります。

記念講演は以前は、のものはな関係の千葉大の諸先生をお願いしていましたが、



写真説明 前列左から(敬称略)原山嘉彦(昭24)、塚原重雄(昭36)、溝部孝二(昭27)、井出源四郎(同窓会長)、佐々木芳岡(昭19)、横山宏昭(昭25)、後列左から 佐野三千広(昭60)、赤星至朗(昭34)、清水天(昭39)、山口正敏(昭39)、三井静(昭38)、山角博昭(昭36)、保坂達(昭27)、中澤肇(昭52)、細田和彦(昭58)

(清水 天・昭39)

この1、2年、医学的な問題、興味を離れてテーマを探しています。

神奈川県下高校出身の学生さんを招待し始めたのも10年を過ぎました。若い学生とお話をするのも楽しみのひとつです。

(原紀道・昭38)

### 山梨のものはな会

平成11年6月3日(木)、甲府富士屋ホテルにおいて、全国同窓会長井出源四郎先生をお招きして、山梨県のものな会が開催された。もととも、30名前後と会員数は少ないが、約半数14名の会員が出席された。

佐々木芳岡会長より井出先生歓迎の挨拶があり、井出先生より、大学の近況、同窓会は会報がカラー印刷となったり非常に活気づいてるとご報告された。更に、

に、会報121号に掲載されている辛亥革命記念(石碑について、補足説明があり、戦争中の武勇伝も拝聴した。

次いで、元県立中央病院長横山宏先生のご発声で乾杯、宴席に移った。次に、山梨県医師会長溝部孝二先生、山梨医大副学長、病院長塚原重雄先生のご挨拶のあと、新入会員2名の自己紹介があった。

懇親会では、恩師の消息、懐かしい学生時代の思い出、学生寮の話、また、医療保険制度抜本改革を目前にして、溝部県医師会長よりホットな情報をお聞きして、時の経つのを忘れるくらい和やかで、楽しい有意義な同窓会でした。最後に、井出先生の格調高い中国の詩人杜甫の話を伺い、前県立中央病院院長赤星至朗先生の閉会の言葉で、来年の再会を約して散会した。

## 神奈川ゐのはな会機関紙

## 「ゐのはな」について

神奈川ゐのはな会の機関紙「ゐのはな」が、今年で、10号を発売しました。年一回ですから10年が過ぎたこととなります。

私は、昭和63年前会長の末永直光先生から会長を仰せつかったものの、同窓会という漠然とした集りをどうしたら良いのか、困ってしまったというのが本音でした。

同窓会が年々高齢化し、

若い人の参加が少なくなっているのは、どこも同じでしょうが、会を盛んにするために、同窓会への意識を高めること、若い人の参加をどう増やすかが、問題と考えました。こんなことから執行部も若手の(当時では、小林賢君(昭30卒)、高橋柳子さん(昭32卒)、森

豊君(昭37卒)、原紀道君(昭38卒)に入ってもらい、会合を開きました。その時出た対策は、神奈川出身の現役学生を総会に招待する。楽しい話しを聞かせてもらえる講師を総会にお呼びする。会員名簿を充実させる。地方の地区の集りを盛んにする。等々の案と共に、会報を作ったという話しが

出ました。実は、私と原君は、その昔、年代は違いますが、学生時代新聞部に属していたこともあって、早速この案に飛びついたので、そもその始まりです。

編集方針は、おおむね経験豊富な原君に委ねることになりました。当日決まった基本方針は次の通りです。

I、会報名は「ゐのはな」かながわとし、発行は年一回とする。

II、雑誌形式とし、内容をパターン化して、編集を簡単にする。

題字(毎回依頼)  
表紙絵(毎回依頼)  
巻頭言(毎回依頼)  
総会記事

病院めぐり  
地区だより  
他地区からのたより

クラス会等  
お祝い、訃報、開業紹介  
随想  
編集後記

を骨格として編集する。  
III、出費は出来るだけ抑える。

10号では600部印刷予算約80万円で大部分を広告料で賄っている。

IV、広く投稿を呼びかける。

等々でした。

今、創刊号から10号迄を振り返りますと、やはり、年々充実してきましたし、面白くなってきた様に思います。最近、多くの地区で会報が発行されだしました。これから、会報上でも交流が深くなればと願っております。

神奈川ゐのはな会

会長 富田 裕

追伸：当会報を御希望の方は、TEL或いはFAXにて、下記迄御連絡下さいれば、残数のある限りお送り致します。

〒236-0021

横浜市金沢区泥亀2-8-3

医療法人 社団 景翠会

金沢病院

秘書室 西山美矢子

TEL/FAX

045-786-8668(館)

TEL

045-781-2611(代)

## 春の叙勲

勲二等旭日重光章

吉田 亮(昭23)

勲四等瑞宝章

相磯 敬明(専25)

勲五等双光旭日章

鈴木 忠男(専23)

勲五等瑞宝章

鈴木 静夫(専18)

青木太三郎(昭28)

## 「叙勲記念祝賀会」の御礼

千葉大学名誉教授 吉田 亮(昭23卒)

磯野可一学長・安達元明

教授・河野陽一教授が発起

人となり、7月17日に開催された「叙勲記念祝賀会」は、210名余の方々のご参加を得、なかなかの盛会であり、しかも、とても楽しい会となりました。厚く御礼申し上げます。沼田 千葉

県知事、井上裕参議院議員(元文部大臣)、江口 衆議院議員、松井 千葉市長、川井 松戸市長、渡辺昌平名誉教授からは、ご懇篤なご祝辞をいただき、ただただ恐縮しております。

さらに、緒方太郎千葉銀行相談役、吉成儀京業銀行相談役、吉原三郎千葉興業銀行相談役、永井幸喜(ケイヨー会長)等々といった、学長時代から現在までも、千葉大学の学生・留学生・

磯野可一学長・安達元明教授・河野陽一教授が発起人となり、7月17日に開催された「叙勲記念祝賀会」は、210名余の方々のご参加を得、なかなかの盛会であり、しかも、とても楽しい会となりました。厚く御礼申し上げます。沼田 千葉



吉田 亮 先生叙勲記念祝賀会

祝辞をのべる

渡辺昌平名誉教授

若い研究者が色々とお世話になっていて、経済界・財界の方々のご出席もあり、感激致しました。こういった

方々のメインテーブルには、学長・谷口医学部長に加え、南塚信吾副学長、伊東正副学長、杉浦哲郎事務局長、菊池俊昭総務部長のご出席も得、有難うございました。

単なる元学長の叙勲祝賀会に終わらせるのではなく、少しでも千葉大学の将来を語るのに役立つ会にしたいという、ささやかな希望はある程度かなえられたと思っております。

二つのメインテーブル以外のご来会者のテーブルは、事前に総て小生が指定させていたできました。ゐのはな淡交会(東京都立三中、現両国高校出身者の会)、旧制静岡高等学校出身者の千葉静高会、医学部同級生、社会医学研究会OB会、小児科同門会、公衆衛生同門会、医学部教授会・名誉教授の方々、ゐのはな同窓会行政関係、千葉市公健康被害認定審査会、学長在任中の部局長及び教職員の方々、現在の絵の仲間(弥生彩心会)という分類で、夫々が隣の方々と共通の話題があ

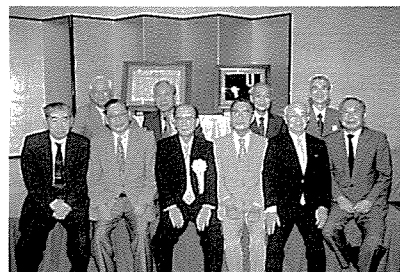
るようにしました。当日も申し上げたのですが、テーブルの案内をしておりますと、私の歩んできた半生を説明している次第と相成りました。

人生の段階ごとに、ご出席いただいた方は勿論、その背後におられる多くの方々の大変お世話になったわけですから、その成果が今回の叙勲につながったわけで、深く感謝申し上げます。

正面の壇上には勲記と勲章を飾り、その右下には近作の50号の油絵「白馬4月」と「犬吠の海」を飾りました。「一体どっちを見せたいんだ」と口の悪い同級生が申しておりましたが、宴酣となりますと、その前でグループ毎に写真をとったりしておりました。

今回の記念に、「吉田亮油彩自選10点」という絵葉書集を作りました。①枯れおち葉②高峰高原③白馬連山④犬吠の海⑤大海⑥スキー靴⑦お酒のお相手⑧変な鳥がいるよ⑨川村美術館⑩初夏(噴水広場)の10枚ですが、そのご挨拶にもありますように、①は小児科医としてスタートしましたが、1年で肺結核に罹患、小児科の病室での2年間の療養中に描いた小品です。

▲勲記・勲章の前に  
社医研OBの人々



画面はひび割れておりますが、写真にしますと結構色が美しく、説明文を読まずにいきなり絵葉書をみた中学時代の友人である中央大学の高木総長は、「①をみて、吉田も腕が上がったなあ」と関心しましたが、何ぞ図らん処女作だった由、絶句!という感想を下さしていました。

小児科教室で19年(このうち2年間は闘病期間)、公衆衛生学教室21年、大学本部で6年と、一貫して千葉大学でお世話になりました。恩師、先輩、友人と実に多くの方々からいただいた深い愛情、友情に改めて深く感謝申し上げます。

最後に、磯野学長・安達教授・河野教授、公衆衛生学教室、小児科学教室と大学本部の方々に厚く御礼申し上げます。

# 日本プライマリ・ケア学会会長就任にあたり

ー プライマリ・ケアについて ー

ゐのな同窓会副会長 渡辺 武(昭27卒)

戦後といってもすでに50年をこえ、21世紀もまぢかとなった現在、医学医療の進歩発展はますますそのスピードを増し止まることを知りません。

医学の基礎たる組織工学といふ分子生物学といふ、ややもすれば従来の倫理の概念をも押し流し、まさに神をも陳腐なものとする勢いです。

よく「医療は医学の社会的な適応である」といわれていますが、複雑な社会に生活する人間の医療にとって科学的な成果を応用するだけで、事足りりとするとは出来ません。患者にとってその医療がはたしてQOLの向上につながりニーズを満足させるものであったかは患者の立場になってみなければわかりません。そこに全人的医療なる言葉が生まれ流行語ともなっています。患者は一つの病気とは限りません。特に高齢者はいくつもの異常を訴えます。国民皆保険制度なのでいろいろな科を巡回します。しかしこれは不幸なことであり医療費の無駄にもつながり

ます。できれば総合的に一つの科で「これが現状ではベターだ」と判断し正確な選択をしてくれる医療者、医者があつてしかるべきです。それがプライマリ・ケア医です。

医療国営の英国というプライマリ・ケア医は総合医の「general practitioner」としていますが、ご存知のように2次医療へのバトンタッチまでであり、紹介医にとどまります。米国などのプライマリ・ケア医・家庭医「family physician」は広大なカウ

ンティーに医療施設が一つというところが多く、いわゆる「なんでもや」でなくては役に立たない、全科対応の一応のテクニクも取得しておかなければなりません。米国の家庭医のカリキュラムを学んでも日本の国情にはあいません。

外国のこれらの所謂プライマリ・ケア医と日本のプライマリ・ケア医とは内容も守備範囲も医師間のステイタスもことなっています。日本では専門分化した学会での成果を患者のニーズにあわせて総合的に社会還

元する臨床医をプライマリ・ケア医といい、その養成プログラムをもっているのが日本プライマリ・ケア学会です。プライマリ・ケアのプライマリとは根源的な、第一の、

医4人があつたり昭和38年に実地医家のための会が結成されました。発起人の一人が本学昭和16年卒の永井友二郎先生。私もその翌年から参加し、毎月第2日曜

日には全国から有志があつたり一回も休会することなく、本年7月には400回記念例会を迎えますが、その150回記念として昭和53年6月

に日本プライマリ・ケア学会を創設しました。平成6年7月には第17回大会を千葉県で開催し、その翌年「いまふたたびプライマリ・ケアを」をテーマにして全国から250人

が参加しました。プライマリ・ケアとは「地域を基盤として継続的に展開させる全人的ならびに包括的な保健・医療・福祉の統合された活動」としています

が、日本プライマリ・ケア学会の創立趣意書には「我が国において医学の進歩は著しく、多数の医学が日夜進歩を競っている。しかし医学

会のはほとんどは病気のための学会であり、真理の追及を目的にしている。しかしわれわれ医療に携わるものにとつては、より真である」

て医療を生み出し、医師にこの高い倫理性と人間生活への有用性をもって社会に奉仕するように期待している。そのために従来の学会と違つた「医療のための学会」が

「プライマリとは初期、近接、総合、本来の意味であるが、これらを意味する内容表現にふさわしい言葉がないのでカタカナ表現で日本プライマリ・ケア学会とする」とい

うことに落ち着きました。現在日本プライマリ・ケア学会の会員数は約300名。在宅医療、介護保険関係等の

医学的・社会経済学的研究や研修会などをはじめとして、また認定研修制度もあり、現在認定医は675人。ま

た世界中の総合医の学会連合であるWONCA国際会議にも毎年参加し2005年には日本で開催することになりました。会員の9割は医師

ですが行政、薬剤師会、看護協会なども加わり広く医療提供団体の開かれた学術研究組織です。

ご協力をお願いいたします。さてなにかと医療費亡国の論が作爲的に流されています。100床あたりの病院職員数の国際比較で欧州185、米

国400、日本87(99)、また国民医療費の対GDP比は7%でスペインについて19位、規則細則づくめの統制医療

のなかインフォームド・コンセントやらカルテ開示を法律で義務づける。ゆとりある医療など夢のまた夢です。千手観音ではあるまいし

「ではどうするか」です。国民参加の医療、開かれた医療、自分の健康は自分で守るといながら具体的にどうするか。福沢諭吉になら

て結局は効果的な「かんがえる医学教育」しかありません。文盲率0をはこる日本で国民医療費30兆円をこえて日本沈没するとい

ながらパチンコには30兆円、旅行には40兆円も消費する国です。エネルギーが無駄に消費されています。

一方通行で決まったテーマばかりでは睡眠教室です。どれだけ判っていたいたかの評価はしたことなしのしっぱなし。両者ともに自己満足にすぎません。

マルチ時代で立体的な五感に訴えた、ゆっくり考え納得してもらおうシステム、日曜日でも夜でも反復して学習できるメディアカルディズ

ニールランドといったものが世界唯一の黒字大国でつくれないものか。またアジア各国から留学に招待すれば、

湾岸戦争で2兆円も無駄に提供するより遥かに国際貢献策になります。内需拡大ではトシカチ仕事しか浮かばないとは情けない。

バブル最盛期の平成元年9月にこの日本健康科学センター構想を知事に要望し、3年間にわたり厚生省と県から研究補助金をいただき報告書を3年前に提出しました(かつてこの同窓会報にも

も投書しました)。NTTはじめ10企業からの2年間にわたる設計図では10hrで200億円。公共投資の〇・〇〇〇五%にすぎず、銀行救済に数十兆円のお金はあっても健康教育へのアイデア、発想はありません。

ペイオフを目前に控えて金融、貯蓄の自己責任時代まっさかりですが、健康の

自己責任といっても国民には安上がりのテレビ、ラジオにたよる健康番組しか勉強の受け皿がありません。医療責任団体として国民にアッピールすべき具体案が何もない現在、日本健康科学センター構想を再度各方面に提言すべきときと思っています。

最後に学会会長としてお願いします。21世紀医療に



会は6時開始でしたが、幹事が4時半に着いてみると、殆どの人達が既に到着して、受付を作る間もありませんでした。

今年はマイスターシンガーの根本(幸)が欠席したので寮歌祭が無く、やや静かなスタートでしたが、そのうちに

来年は、羽生幹事で東京で開催されます。交通の便も良いし、豪華な会を計画してくれるそうですから大いに期待しましょう。諸兄の奮ってのご参加をお待ちしております。

参加者 有馬道男夫妻、荒木晃植松哲、宇都宮実、大原一夫、岡野正、奥平昌彦、草柳芳昭、窪田淑子夫妻、佐野迪雄、柴田千葉

男、島崎淳、高橋剛夫妻、富岡清海、中島哲一、永瀬敏行夫妻、西三郎、野口幸平、長谷川透、羽生富士夫、樋口道雄、福井朗、福田恵司、松尾成久、山田兼雄、和田房治、幹事は草柳、和田

(和田房治)

翌日は観光組とゴルフ組に分かれ、観光組は、マイクロスコープで芦ノ湖周辺を巡り燦々たる陽光の下、素晴らしい風光を楽しみました。ゴルフ組は8人で箱根湖畔ゴルフコースをプレイし、優勝は野口、準優勝山田、でしたが、羽生が絶好調でベスグロを出したのに、ペリア方式で不運にも5位とは意外でした。

来年は、羽生幹事で東京で開催されます。交通の便も良いし、豪華な会を計画してくれるそうですから大いに期待しましょう。諸兄の奮ってのご参加をお待ちしております。

参加者 有馬道男夫妻、荒木晃植松哲、宇都宮実、大原一夫、岡野正、奥平昌彦、草柳芳昭、窪田淑子夫妻、佐野迪雄、柴田千葉

男、島崎淳、高橋剛夫妻、富岡清海、中島哲一、永瀬敏行夫妻、西三郎、野口幸平、長谷川透、羽生富士夫、樋口道雄、福井朗、福田恵司、松尾成久、山田兼雄、和田房治、幹事は草柳、和田

(和田房治)

翌日は観光組とゴルフ組に分かれ、観光組は、マイクロスコープで芦ノ湖周辺を巡り燦々たる陽光の下、素晴らしい風光を楽しみました。ゴルフ組は8人で箱根湖畔ゴルフコースをプレイし、優勝は野口、準優勝山田、でしたが、羽生が絶好調でベスグロを出したのに、ペリア方式で不運にも5位とは意外でした。

来年は、羽生幹事で東京で開催されます。交通の便も良いし、豪華な会を計画してくれるそうですから大いに期待しましょう。諸兄の奮ってのご参加をお待ちしております。

参加者 有馬道男夫妻、荒木晃植松哲、宇都宮実、大原一夫、岡野正、奥平昌彦、草柳芳昭、窪田淑子夫妻、佐野迪雄、柴田千葉



談相尽きず、名残り惜しく、山口君の閉会の辞をもって散会しました。

これからは、年をとる毎に何が起こるか分らず、健診と生活習慣の節制により、未長く元気で活躍して頂きたいものと思います。

「当日の出席者」

猪狩好令・井幡宏・庵原昭一・海老原雄一・北川定謙・神尾鋭・志村公男・徳山輝男・桑原久・関光倫・松丸信太郎・西原源太郎・古川裕生・森肇・森碧・山口慶三・中野菊乃・上野節子及び◎筆者(計23名)(◎印は夫婦)

(小野清四郎)

5年毎に開かれていた同窓会が、平成9年、卒後35周年を記念して伊豆長岡温泉で開催された同窓会で、今後、地元千葉で一回、他県で一回と交互に開催することを全員一致で決めたから2年が経過した。

本年が、千葉開催となり、5月29日(土)幕張プリンスホテル・ス

談相尽きず、名残り惜しく、山口君の閉会の辞をもって散会しました。

これからは、年をとる毎に何が起こるか分らず、健診と生活習慣の節制により、未長く元気で活躍して頂きたいものと思います。

「当日の出席者」

猪狩好令・井幡宏・庵原昭一・海老原雄一・北川定謙・神尾鋭・志村公男・徳山輝男・桑原久・関光倫・松丸信太郎・西原源太郎・古川裕生・森肇・森碧・山口慶三・中野菊乃・上野節子及び◎筆者(計23名)(◎印は夫婦)

(小野清四郎)

5年毎に開かれていた同窓会が、平成9年、卒後35周年を記念して伊豆長岡温泉で開催された同窓会で、今後、地元千葉で一回、他県で一回と交互に開催することを全員一致で決めたから2年が経過した。

本年が、千葉開催となり、5月29日(土)幕張プリンスホテル・ス



カイバンケトルームで32名が参加して開かれた。

最初に記念撮影をすませ、同窓会幹事の高柳君の元気な開会の挨拶の後、クラス幹事の嶋田(文)君の乾杯の発声で会食に入った。地元でもあり、各テーブルで話が進み、近況を語り合った。満腹感を持ちはじめた頃、一人ずつが近況報告となり、うつ病になり、2年間治療について苦悩や、もう8年も医業をはなれている等の話や、一方、オリンピックの選手指導の立場にありながら、若い選手に恋心をいだいて、悩んでいる姿が語られ、予定の2時間半があつという間に過ぎてしまった。

二次会もなく、翌日は各自自由にと、特別な行事を



山紫会は、今年は卒後40周年、大方は定年を迎えた年である。今年の会は、千葉在住の有志が世話人となつて、平成11年5月15日(出)



次回、東京で再会を約束して夜のとりの中を散会した。  
(奥山隆保)  
同窓会幹事 ◎高柳博海、伊藤治武、入技幸三郎、奥山隆保、伯野中彦、藤森宗徳

いっさいぬいた会であつたが、さわやかな心地良さを感じたのは私だけだったろうか。各自が、地位、仕事の内容、立場等、その内容は様々であるが、近況報告時の姿は37年前そのままなのに不思議な感慨を覚えた。

ホテルニューオータニ幕張24階シリアスの間で開いた。午後6時の開会を待ちきれずに続々と集まり始め、最終的には40名の盛会となった。卒業時で79名、その後の物故者が8名であるから、大変な出席率である。

会は松本博雄君の開会の挨拶、谷嶋俊雄君、吉井功君の司会で、記念写真撮影、物故者の追悼、欠席者の近況報告、るのな山の近況紹介、出席者の近況報告や歓談と進み予定の2時間半はあつという間に過ぎてしまった。

山紫会の40年の歩みの中で20周年目の記念植樹「百合の木」は大学病院バス停前に亭々とし、25周年の記念写真真集、30年目の「医学思想の源流」の共同翻訳出版などクラス会としてはユニークな足跡を残してきた。出席者の面々の多くが二次会で更に積もる話に興じ、まだまだ意欲を感じさせる会であつた。

アトラクションとして高山礼至氏のアコーディオン演奏があり、その最後の曲

「友よ 私のはっきり言う。自信を持って自分を語ろう。」

人生を精一杯生きたと。あらゆる道を旅したと。そしてそれ以上に。たくさんの方を自分流でやっ

た。」

今回は多田富雄君たち東京在住の有志が世話人となつて開催する。

(館野之男)  
出席者 荒木英爾・石川堯夫・五十嵐正彦・植村研一・植田伸夫・兼重忠司・神田芳郎・倉持正昭・坂田早苗・佐々木輝幸・塩川喜之・清水順三郎・清水精子・鈴木博孝・山口勝・館野之男・多田富雄・高木良章・永井順・長山浩二・長尾佳子・西川義明・野口徹男・原久弥・羽田忠・原澤寿三男・飯田静夫・飯田暢子・藤田昌宏・松原保・松本博雄・三浦光彦・矢崎光保・谷嶋俊雄・山田明義・矢野延多・吉井功・横山哲夫。山本成元・川名教子夫人(敬称略)



今年の22会は富岡在住の沖真澄君のお骨折りで妙義山麓の玉屋ホテルで行われた。5月22日昼一同新幹線高



謡ってくれた。夜の更けるのも忘れ懐旧談が続いた。

翌23日は心のこもった厚いもてなしを受けた宿をあとにし、バスを駆って妙義山麓をひたすら走るのである。晴天に恵れ車窓から見

た下仁田の風光は印象的であつた。軽井沢に出、白糸の滝を見学、鬼押出しで昼食をとり再び軽井沢に戻り大変お世話になった沖君と別れ一同車中の人となる。今回は参加者が少くやや淋しさを禁じ得なかったが久しぶりに旧友に会う喜びは捨て難い。来年は多くの友人に会いたい願いを込めて別れたのである。



(参加者) 家本誠一、石橋文太、今井力、沖真澄、神山英明、清水健三、竹内辰五郎、新田実男夫妻、藤森英雄、三橋公平夫妻、茂又真祐、鷺田一博、有益安子、中川雅子(敬称略) (新田実男)  
新緑に映える5月15日、昭和26年医専卒、八千会総会及び懇親会が東京在住の大田和明総務幹事の手配で新宿ワシントンホテル内、和食銀座で6時半より開催

された。

出席14名、遠方からの出席は昨年の開催地で大変お世話になった長崎の原寛君と長野の今井良夫君くらいで殆どが東京及びその近郊在住者であつた為、今回は珍しく宿泊希望は無く、当日行事で終了と言う事に相成つた。

4年前、豊橋での開催に喘息による呼吸不全の病苦をおして幹事として活躍された佐々木三雄君を昨年末失うまで46名中、既に11名の友人を失っている。又、近況報告によると残る会員の三分の一も何らかの疾病を抱えているのが現状である。平均年齢73才の会員としては、やむを得ない事ではあろう。

物故会員への黙祷が始まり森巨敬会長の挨拶、総務



報告、会計報告等、総会次第を滞りなく終り、原寛君の乾杯発声で懇親会に移る。例年の如く酔いの多少まわつた頃を見計らい各自の近況報告がなされる。家族のこと、勤めのこと、趣味のこと、色々あったが、ご多分に漏れず体調に関わる話が少かつた。

それに付けても丈夫で、年をとっても自分なりの理想を追及する意欲を持ち続けられたらと思う。

お互い茶茶をいれたりして和気あいあい忌憚のない話が續く。だんだん昔の青春の顔に戻り楽しい時間が過ぎて行く。8時半をまわつて今井良夫君の閉会の辞により一応お開きとなる。この際今井君より来年の開催地は長野で引き受けてくれることとなった。

時間の許される者は同ホテル内、二次会場のバーに向かう。更に尽きぬ話に花が咲き10時近く別れを惜しみつつ散会していった。  
出席者(敬称略) 今井良夫、磯辺宏志、大沢弘和、大田和明、片桐優、小関芳昌、佐藤宏、鷹野悦三、田口貞文、田中政憲、津村澄雄、原寛、本間彬、森巨敬。  
(大沢弘和)

## 二先覚のレリーフについて

千葉大学名誉教授  
萩原彌四郎(昭23卒)

明治40年代に千葉大学医学部の前身校である千葉医学専門学校学校の初代・二代の校長であられた長尾精一・荻生録造両先生の銅像が建てられた。時期が2年ほどずれており、荻生先生の方が先であったが、2つ並んで猪之鼻台上に安置された。この二墓の銅像は後述のような次第で昭和の初期に移設され、さらに昭和18年には墓柱を残して国に献納されてしまう。しかし昭和35年には残された墓柱の一つを別の場所に移してその左右面に両先生のレリーフが作られて往時の面影の一部が



萩原彌四郎先生と記念碑

月には第一高等中学校医学部開設以来の計算で、本校創立25年記念祝賀会が行われ、小松原文部大臣、極密顧問官船越男爵、告森千葉県知事など来賓多数の集まる中、本校初代校長長尾先生の記念銅像の除幕式が行われた。その折には先生の直孫である紅顔12才の長尾乾君が、三輪徳寛先生の介添で序幕の紐を引いたという。

さて、相前後して建てられた両先生の胸像の並び立てられた場所であるが、鴻海蔵氏によれば「今の附属病院(現在の医学部本館)の正門を入った所」、森島侃一郎氏によれば「附属病院(同)門衛後方の大なる

松の東方」であったという。この松は今はないが、おそらく旧病院の二外科側の前の、芝生の中ではなかったかと思う。

現在の医学部本館の位置に附属病院を新築することが決まり地鎮祭が行われたのは、昭和6年4月であり、そのために2つの胸像はそれまでの病院(混乱を避けるために「旧館」と呼ぶことにする)前に移された。その上、昭和18年の閣議決定に基づき、銅像供出方を命ぜられて、建物の脇に石の墓柱のみが並び立つ姿となり、注目すべき存在となり得なくなった。

昭和19年の秋、私が初めて千葉医大を訪れた時、大学病院(現在の医学部本館)の前は大きな広場になっていて、千葉駅から来たバスの終点は病院玄関前であった。広場を隔てて今の動物実験施設のあるあたりに二階建ての職員食堂があり、その後ろに木造の建物があり、それが「旧館」であったが、この建物は昭和12年11月から、陸軍より傷病兵収容所に借用されていた。「旧館」の正門は森島氏(前出)によると今の病院(医学部本館)の正門から病院坂の方に約50m程下だった(現在大学病院行きの

バス停「千葉県文化会館入口」のあたりで、土手が大学側に凹んでいる所かと思われる)にあったという。階段を上がって正面玄関に達すると、その脇に大きな楠(カンファー)の樹が立っていたのだが、2つの墓柱はその近辺に移されたのではない。新入生であった私たちはその辺にはほとんど行かなかったが、(旧館)が空襲で焼失した後も草原の中に並立していたらしい。

昭和35年11月、千葉大学85年記念式典が盛大に行われた。その記念行事の一環として記念碑建立と長尾、荻生両校長像の復元を兼ね行うこととなった。残存していた墓柱の1つを利用することとし、それを大学西門から基礎医学新館(「旧館」)の跡地に昭和33年に開設)への道の傍ら、同窓会館の近くに押し、二紀会会

員松村外二郎氏の意匠により、その上に平たい円石盤を載せて、それに創立85年記念の文字を刻んだ。また、墓柱の左右両面には松村氏の彫刻した長尾、荻生両校長の青銅レリーフを張り、前面には黒大理石の碑文面を掲げた。この碑の除幕式は11月3日、長尾校長の直孫(前出)一家、荻生校長

のご子息荻生規矩夫氏の臨席の下で行われた。

長尾精一先生は明治13年前身校である公立千葉病院の病院長兼医学教頭の職についてから、県立千葉病院第一高等中学校医学部、第一高等学校医学部、千葉医学専門学校と昇格と発展を重ねるごとに、常にその長となり、明治35年7月病に倒られるまで22年余、文字通り本学の発展を身をもって推進されたのである。長尾校長逝去の後を受けて、荻生録造先生が第二代校長となり、13年後の大正3年末に逝去された。いわば、第3代校長の三輪徳寛先生の任期の終わりに近い大正12年に官制が改正されて、千葉医科大学が置かれる前の本学を育てられたお二人の先生のご容貌を、レリーフとはいいいながら遙かな後進たちが拝することが出来るようになったわけである。

ところで、昭和12年に完成し、当時東洋一と称せられた大学病院も診療形態の変化や患者数の急増にともない、高度な機能を持った近代病院新館の必要に迫られ、慎重な討議、検討の結果、矢作地区に現病院を新築することになり、昭和50年に完成、移転が行われた。これまでの病院は基礎

医学講座および臨床各講座の研究部門が共同して利用することとなった。時を同じくして昭和50年に千葉大学医学部の敷地内に看護学部が設置されることになり、その校舎予定地と千葉大学図書館亥鼻分館が基礎医学各教室あとに入ることにになり、同年7月に看護学部の開学式が行われた。

これに伴い、同窓会館近くに置かれていた長尾、荻生両校長のレリーフが医学部からやや離れて了うことならびに本館前庭の整備の都合も有って、三度移動を余儀なくされることとなった。現在は医学部本館からの記念講堂へ行く道の途中の、左側の少し小高くなった小さな林の中に有る。やや目につきにくい所であるが百年余後の千葉大学医学部を両先生は木陰から静かに見守って頂いていると思っ

ている。

付記 この小文は千葉大学医学部85年史の中の特に鈴木正夫、小林龍男両先生の「医学部の沿革」を参考にし、これに私の極めて乏しい記憶を加えて書かせていただいた。間違ひもあることと思うので大方のご叱正、ご加筆をお願いできれば幸甚である。

## 平成11年度るのはな同窓会総会議事録

日時

平成11年6月26日(土)

場所

ベリエホール(千葉駅ビル5階)

事業報告

本内政寛理事より昨年度の会務報告がなされ、同窓会活性化の重要施策(同窓会報の充実、るのはな同窓会賞の充実、学内・学外への各種助成の充実、会費自動振替の推進)、会議(常任理事会、総会、四金会)、支部るのはな会への大学教員の派遣、同窓会賞関係の選考(功労賞3、学術賞4)、直通電話およびFAXの設置、平成11年度よりパート事務員雇用等につき説明があった。

議題

一、平成10年度決算(案)

中島祥夫理事より決算内容についての説明と国井・笠川両監事より監査報告があり、決算案が承認された。

二、平成11年度事業計画

増田善昭理事より同窓会活性化の一環として、るのはな同窓会学外研究助成に関する説明、木内政寛理事より医学部学生図書の特助成に関する提案、嶋田 裕理事より

名簿改訂作業に関する説明があり、各々承認された。

三、平成11年度予算(案)

中島祥夫理事より昨年度との相違点につき説明があり承認された。パートの給与、学外助成金、学生図書助成金が新たに含まれている。

四、会則の一部改正

増田善昭理事より早急なる対応をせまられる審議事項を総会を待たずに議決できるように第31条の一部改正が提案され承認された。

五、会費改訂

増田善昭理事より新規事業ならびに人件費等により会費値上げの必要性が提案され、他大学の会費等を参考に、現在の3千円から5千円に値上げする案が承認された。本件は平成12年度より実施される。

六、名誉会員の推薦

矢野明彦理事より平成11年3月に退官された4教官(藤村眞示、近藤洋一郎、米満 博、若新政史)の名誉会員への推薦趣旨の説明があり、承認された。

報告事項

一、るのはな同窓会賞受賞者の決定  
嶋田 裕理事より委員会による選考経過と功労賞(川崎富作、栗原 稔、谷川久一)学術賞(青才文江、鶴沢一弘、下山恵美、中野裕康)の各候補者の推薦理由の説明があった。

二、同窓会会報

鈴木信夫理事より同窓会会報のカラー化、内容のさらなる充実に向けての編集方針につき報告があった。

るのはな同窓会賞表彰式

選考委員長の嶋田 裕理事の司会のもと、るのはな同窓会賞(功労賞、学術賞)の表彰式があり、井出源四郎会長からの表彰楯の授与および受賞者の挨拶があった。

懇親会

大沼直躬理事の司会で全国るのはな会が活発に活動されている旨の井出源四郎会長のご挨拶の後、貫洞一夫副会長の乾杯に始まり和やかに歓談の時を過ぎた。近藤洋一郎副会長のるのはな同窓会の益々の発展を祈る旨のご挨拶で閉会となった。

## 平成10年度決算報告書

収入の部

| 款 項 目         | 予 算 額 (円)  | 決 算 額 (円)  | 対予算額 (円)  |
|---------------|------------|------------|-----------|
| 会 費 等         | 14,700,000 | 15,910,750 | 1,210,750 |
| 他 会 計 よ り 受 入 | 330,000    | 266,896    | -63,104   |
| 寄 付 金         | 2,800,000  | 3,119,502  | 319,502   |
| 雑 収 入         | 20,000     | 74,167     | 54,167    |
| (当期収入計)(A)    | 17,850,000 | 19,371,315 | 1,521,315 |
| 前年度繰越資金受入(B)  | 1,717,699  | 1,717,699  |           |
| 収入合計(A)+(B)   | 19,567,699 | 21,089,014 | 1,521,315 |

支出の部

| 款 項 目           | 予 算 額 (円)  | 決 算 額 (円)  | 対予算額 (円)   |
|-----------------|------------|------------|------------|
| 総 務 費           | 6,200,000  | 5,945,343  | 254,657    |
| 事 業 費           | 10,220,000 | 9,011,956  | 1,208,044  |
| 予 備 費           | 1,247,699  | 362,699    | 885,000    |
| 積 立 金           | 1,900,000  | 200,000    | 1,700,000  |
| 次 期 繰 越 収 支 差 額 | 0          | 5,569,016  | -5,569,016 |
| 支 出 合 計         | 19,567,699 | 21,089,014 | -1,521,315 |

## 平成11年度予算(案)

収入の部

| 款 項 目         | 平成11年度予算額(円) | 平成10年度決算額(円) | 対前年度決算増減額 |
|---------------|--------------|--------------|-----------|
| 会 費 等         | 15,430,000   | 15,910,750   | -480,750  |
| 他 会 計 よ り 受 入 | 250,000      | 266,896      | -16,896   |
| 寄 付 金         | 3,250,000    | 3,119,502    | 130,498   |
| 雑 収 入         | 110,000      | 74,167       | 35,833    |
| (当期収入計)       | 19,040,000   | 19,371,315   | -331,315  |
| 前年度繰越資金受入     | 5,569,016    | 1,717,699    |           |
| 収 入 合 計       | 24,609,016   | 21,089,014   | 3,520,002 |

支出の部

| 款 項 目           | 平成11年度予算額(円) | 平成10年度決算額(円) | 対前年度決算増減額  |
|-----------------|--------------|--------------|------------|
| 総 務 費           | 8,490,000    | 5,945,343    | 2,544,657  |
| 事 業 費           | 14,260,000   | 9,011,956    | 5,248,044  |
| 予 備 費           | 1,559,016    | 362,699      | 1,196,317  |
| 積 立 金           | 300,000      | 200,000      | 100,000    |
| 次 期 繰 越 収 支 差 額 | 0            | 5,569,016    | -5,569,016 |
| 支 出 合 計         | 24,609,016   | 21,089,014   | 3,520,000  |

学生用図書現状

医学概論、チュートリアル、臨床入門、クリニカルクラシックなどが目玉である新しいカリキュラムがスタートしてから今年で6年目となりました。今年度卒業となる私たちは新カリ一期生であり、内外の期待をひしひしと感じております。

前述のチュートリアルとは、一つの学年が一緒の講義を受けるのではなく、5人程度の小グループ学習をするものです。いわゆる伝授型の授業でないため、自分たちであらかじめ下準備をする必要があります。こうして見ますと、1時間半の講義をしなればならない時には、その何倍もの時間をかけなければできないことがおぼろげながら分かってきます。

さて、この自学習で必要となるのが教科書や参考書などの図書であります。実際にはせっかくのチュートリアルなのに、必要な書物が同じグループの学生に借りられていて、調べることができなかつたというケースはよくありました。この点で、教材を充実させて欲しいとか、同じ本が何冊か欲しいといった要望が学生側から出されております。

学生用の図書費として文部省から配分されている額は僅少です。また各教室の予算で、雑誌や書籍が購入され、私たちはそれを利用してさせていただいておりますが、いずれも要望を満たすところまでは至っていません。ご存じのように医書は単価が高いため、図書館では広く浅く本を集め、また継続図書(同じシリーズのもの、教科書でいえば医学書院の標準シリーズなど)の購入が精一杯で、新規図書まではなかなか手が回らず、冊数も増えないことなどから、資料を補いきれていないのが現状です。

このため毎年、退官なさった先生方、同窓会、後援会から図書を寄贈していただいております。平成10年度には、磯野可一先生、新美仁男先生、三方惇男先生から計48冊、同窓会から40冊、後援会から39冊の寄贈を頂きました。ありがとうございます。

今後ともさらなるご協力をお願い申し上げます。

(栃木直文 学6)



る の は な 同 窓 会 学 外 研 究 助 成 (以下学外研究助成) 規定

第1条 目的と対象 本規定は本会会員(甲及び乙)の研究活動を推進するため、研究課題を公募し生命科学・臨床医学の進歩、健康と福祉の向上に貢献できる優れた研究に対し研究費の助成を行うものである。助成対象は国内外の大学ないし、それに準ずる研究所以外の施設で本会会員が代表者となって行うものとする。

第2条 助成要項 本会は別に定める募集要項により年一回研究課題の公募を行い、優秀な研究数件に対し、助成を行う。募集要項はるのな同窓会報に掲載する。助成金額については、常任理事会で決定する。

第3条 委員会 本会に学外研究助成選考委員会(以下委員会)を置く。委員会は会長の下に設け、助成の候補となる研究課題の公募と選考を行う。

第4条 委員会の構成 委員会を構成する委員は6ないし8名とし、るのな同窓会常任理事会の推薦に基づき、るのな同窓会長が委嘱する。委員の任期は2年とし半期に半数を改選する。委員の再任は妨げないがその期間は2期を超えないものとする。欠員が生じた場合、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。また、委員の互選により委員長を置く。

第5条 組織及び運営の細目 前条までに定めるもののほか、選考委員会の事務運営の細目については常任理事会の承認を得て委員会が定める。

第6条 助成研究の決定 助成研究の決定は選考委員会、常任理事会の議を経て会長が行う。決定された助成については課題名、研究代表者、研究施設名をるのな同窓会総会及びるのな同窓会報に公表する。

第7条 研究報告 学外研究助成を受けた代表研究者は一定期間内に、学術誌に公表された研究内容および、助成金の会計を本会に報告しなければならない。付則 本規定は平成11年4月1日から施行する。

次回四金会のお知らせ

日時 平成11年11月24日(水)、午後5時30分より。  
場所 ペリエホール(千葉駅ビル5階)

当日、叙勲された方々を御招待致します。個々に御連絡致しますませんが、是非奮って御参加下さい。  
会費は3000円

編集後記

あらためて記述することではないかもしれませんが、本会報の特徴は、亥鼻台で時を刻んだ方々の過去と現在を結び交流紙であります。また、前号での柳橋先生による編集後記から推察してい

ただけですが、ボランティア的活動でささえられている機関紙でもあります。さらに、最近の世情を考えると、未来にも責務を負う情報誌でもあります。国公立大学は生き残りをかけて様々なくふうをこらしていますが、学生募集用宣伝の一つに、キャンパス紹介があります。

本号での「医大の牛頭天王碑」、「二先覚のレリーフについて」および「辛亥革命記念碑について」は、亥鼻台の由緒を若者に知らせるためのかつこの記事ともなりましょう。では、医療革命に対する役割は?皆様からの積極的御提言をお待ちする次第です。(鈴木信夫)

おくやみ

| 新名簿 (二〇〇〇年度版)                             |              |
|-------------------------------------------|--------------|
| 発行予定                                      | 平成11年11月     |
| 価格                                        | 3000円(送料を含む) |
| 規格                                        | A4変型版        |
| 未だ予約をされていない方は、同窓会事務局までご連絡下さい。振込用紙を送付致します。 |              |
| 予 約 申 込 み ご 案 内                           |              |
| お く や み                                   |              |
| 松浦藤四郎(大9)                                 | 浜野 創作(昭22)   |
| 四倉 信雄(大12)                                | 丸山 卓治(昭22)   |
| 松井吉太郎(東医6)                                | 小林 康郎(昭23)   |
| 森本 一善(昭3)                                 | 宮島 健郎(昭23)   |
| 千葉 保之(昭8)                                 | 牧 豊(昭24)     |
| 嶋田 宗之(昭9)                                 | 武本 吉浩(昭24)   |
| 穴原 政男(日大9)                                | 富井 信明(昭24)   |
| 山本 正之(日大10)                               | 藤塚 次雄(昭24)   |
| 庄司 辰雄(昭14)                                | 朝倉 桂三(昭25)   |
| 重田 定正(東大14)                               | 岩沢 治(東専25)   |
| 峰岸 一雄(昭15)                                | 柴田 鶴彦(慈恵25)  |
| 松崎 泰夫(昭16)                                | 府川 幸三(昭26)   |
| 村田 萃(日大16)                                | 岡本 昭二(昭27)   |
| 樹下 信徳(昭18)                                | 影山 乾一(昭27)   |
| 米沢 利英(東北大20)                              | 尾形 創(昭28)    |
| 青木 光一(専20)                                | 相楽 恒俊(昭31)   |
| 内藤 徹郎(昭22)                                | 福本 泰彦(昭31)   |
|                                           | 中原 利郎(昭56)   |
|                                           | 鈴木 潤子(群平2)   |